

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
融合学域	先導学類	夜・通信	21	1	29	51	13	
	観光デザイン学類	夜・通信			18	40	13	
	スマート創成科学類	夜・通信			14	36	13	
人間社会学域	人文学類	夜・通信		2※1	14	37	13	
	法学類	夜・通信			8	31	13	
	経済学類	夜・通信			8	29	13	
	学校教育学類※2	夜・通信			8	29	13	
	学校教育学類共同教員養成課程※2	夜・通信		2※1	24	47	13	
	地域創造学類	夜・通信			6	29	13	
	国際学類	夜・通信			6	29	13	
理工学域	数物科学類	夜・通信				21	13	
	物質化学類	夜・通信				21	13	
	機械工学類	夜・通信			6	27	13	
	フロンティア工学類	夜・通信			6	27	13	
	電子情報通信学類	夜・通信			5	26	13	

	地球社会基盤学類	夜・通信			10	31	13	
	生命理工学類	夜・通信			6	27	13	
医薬保健学域	医学類	夜・通信			19	40	19	
	薬学類	夜・通信			29	50	19	
	医薬科学類	夜・通信			3	24	13	
	保健学類	夜・通信			153	174	13	
(備考) ※1 学部等共通科目 2 単位は、経済学類は専門科目での開講のため、専門科目として計上、学校教育学類では開講していないため計上しない。 ※2 学校教育学類は令和 4 年度に共同教員養成課程を設置した。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>
HOME (<https://www.kanazawa-u.ac.jp/>、以下同じ。) > 教育・学生支援・学生活動 > 授業履修に関する情報 > Web シラバス (授業案内) > 開講学域を選択→「実務経験のある教員による授業」欄にチェック→検索

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

刊行物：金沢大学概要 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/outline HOME > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学概要 大学 Web サイト：役員 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/yakuin HOME > 金沢大学について > 金沢大学の概要と将来構想 > 役員・副学長・学長補佐
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省 総合教育政策局 政策課長	2024年8月1日 ～2028年3月31日	総務・財務・ 施設担当
非常勤	東北大学 災害科学国際研究 所特別荣誉教授	2018年4月1日 ～2028年3月31日	産学連携・高等教 育改革担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) <u>すべての学域等で共通</u> 授業計画の作成過程 次年度時間割編成後に、当該授業担当教員が Web システムでデータを入稿する。その際、次の項目は入力必須としている。 「授業の主題」、「学修目標(到達目標)」、「授業概要」又は「講義スケジュール」、「評価の方法と割合」、「授業時間外の学修(予習・復習)に関する指示」、「オフィスアワー等」、「英語化率」、「開講形態」。 入稿後、各学域等において全項目の内容を点検したうえで、Web にて学内外に公開している。 授業計画の作成・公表時期 前年度1月から Web システムで入稿を開始し、前年度3月1日に公開する。 (例：2026年度のシラバスは2025年度の3月1日に公開した)。	
授業計画書の公表方法	Web サイト上で公表 ○金沢大学 Web シラバス https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 授業履修に関する情報 > Web シラバス(授業案内)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) <u>すべての学域等で共通</u> あらかじめシラバスで公開する「評価の方法と割合」に示す成績評価の方法・基準により、学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を与えている。 なお2019年度より、上記をより詳細なものとした「科目ルーブリック」を導入し、シラバスへの掲載を開始した。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) すべての学域等で共通 本学履修規程第14条(成績の評価)及び第15条(総合成績評価)にて、成績の評語、判定、学修達成度、GP、GPA算出方法等について定めている。 GPAは学期ごとに算出し、学務情報サービスの学生成績閲覧ページにて掲載している。 GPA=(授業科目で得たGP×その授業科目の単位数)の総和/(履修登録した授業科目の単位数の総和) 評語: GP=「S:4点」「A:3点」「B:2点」「C:1点」「合:対象外」「認定:対象外」「不可:0点」「否:対象外」「放棄:0点」 「教育の質保証」の根幹をなす厳格・公正な成績評価のため、Web上(学内限定)で成績分布を公開し、教職員が参照できる仕組みが整っている。 また、2021年度開講科目からは学士課程において学類・年次ごとの1年間の成績分布(年間GPA)を本学Webサイトに掲載することを2022年度に実現し、成績分布状況の分析、成績評価の信頼性を確保する取組を進展させている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	○金沢大学履修規程 金沢大学 > 金沢大学について > 会議・諸規程等 > 組織諸規程等 > 金沢大学規程集 https://www.kanazawa-u.ac.jp/kiteishu/act/110000203.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) すべての学域・学類の卒業の認定に関する方針、すなわち学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を、次のWebサイトで集約・公表している。 https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772 金沢大学 > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー 卒業の認定に必要な修得単位数については、次のWebページで集約・公表している。 https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/570#a2 金沢大学 > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 卒業要件	
卒業の認定に関する方針の公表方法	○学位授与方針(ディプロマ・ポリシー) https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772 金沢大学 > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukougai/zaimu HOME>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報
収支計算書又は損益計算書	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukougai/zaimu HOME>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報
財産目録	—
事業報告書	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukougai/zaimu HOME>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報
監事による監査報告(書)	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukougai/zaimu HOME>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/evaluation/evaluation HOME > 金沢大学について > 中期目標と評価 > 自己点検評価/認証評価/その他の評価
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公表方法: Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/evaluation/evaluation HOME > 金沢大学について > 中期目標と評価 > 自己点検評価/認証評価/その他の評価
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 融合学域
教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトで公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku/gakushi HOME > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報 > 学域、学類の教育研究上の目的)
(概要) 広範な分野にわたる教養と文理融合の知見を醸成し、課題発見・解決の知を展開することで、地域と世界に貢献することを理念とし、知識基盤社会の中核的リーダーシップを発揮できるイノベーション人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表 https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772 HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー)
(概要) ●先導学類 社会変革を先導するために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を活用した思考力・発想力・実践力を獲得する。 その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（学術）の学位を授与する。 ・社会変革を先導するための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力 ・未来課題を理解し、ヒト・モノ・コトに関する多様な情報を収集・分析する力 ・総合知を背景に課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力 ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力 ・事業創造等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力 ●観光デザイン学類 観光価値をデザインするために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を活用した思考力・発想力・実践力を獲得する。 その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（学術）の学位を授与する。 ・観光価値をデザインするための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力 ・未来課題を理解し、ヒト・モノ・コトに関する多様な情報を収集・分析する力 ・総合知を背景に課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力 ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力 ・価値創出等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力 ●スマート創成科学類 未来の科学を創成するために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を

活用した思考力・発想力・実践力を獲得する。 その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（学術）の学位を授与する。 ・未来の科学を創成するための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力 ・未来課題を理解し、ヒト・モノ・コトに関する多様な情報を収集・分析する力 ・総合知を背景に課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力 ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力 ・スマート創成等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表 https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772 HOME ＞ 教育・学生支援・学生活動 ＞ 授業・履修 ＞ 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー）
（概要） ●先導学類 卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成する。 専門教育科目には以下の科目群を設ける。 ・ヒト・モノ・コトに関する基礎的・応用的な知見を多様な情報の収集・分析から修得するために「学域G S 科目」を設け、総合知に資する多様な専門スキルを学修する科目を配置する。 ・自己の使命を果たすべく国際社会で積極的に発信する力を修得するために「学域G S 言語科目」を設け、到達目標を定めて学修する E M I （English-Medium Instruction）科目を配置する。 ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けた発想力や実践力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。 ・知の飛躍に向けて必要となるイノベーションの根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「コア科目」を設け、さらに 3 つのコアエリアに区分し、科目を配置する。 ・未来課題の解決に資する知見を獲得するために「学知科目」を設け、多様な分野の科目を配置する。 ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、グループワークを行う演習等を中心とした科目を配置する。 ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。 ●観光デザイン学類 卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成する。 専門教育科目には以下の科目群を設ける。 ・ヒト・モノ・コトに関する基礎的・応用的な知見を多様な情報の収集・分析から修得するために「学域G S 科目」を設け、総合知に資する多様な専門スキルを学修する科目を配置する。 ・自己の使命を果たすべく国際社会で積極的に発信する力を修得するために「学域G S 言語科目」を設け、到達目標を定めて学修する E M I （English-Medium

Instruction) 科目を配置する。

- ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けた発想力や実践力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。
- ・知の飛躍に向けて必要となる観光学の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「基盤科目」を設け、科目を配置する。
- ・未来課題の解決に資する知見を獲得するために「学知科目」を設け、さらに 3 つのコアエリアに区分し、多様な分野の科目を配置する。
- ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、プロジェクト開発を行う演習等を中心とした科目を配置する。
- ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。

●スマート創成科学類

卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成する。

専門教育科目には以下の科目群を設ける。

- ・ヒト・モノ・コトに関する基礎的・応用的な知見を多様な情報の収集・分析から修得するために「学域 G S 科目」を設け、総合知に資する多様な専門スキルを学修する科目を配置する。
- ・自己の使命を果たすべく国際社会で積極的に発信する力を修得するために「学域 G S 言語科目」を設け、到達目標を定めて学修する E M I (English-Medium Instruction) 科目を配置する。
- ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けたスキルや発想力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。
- ・知の飛躍に向けて必要となる科学技術の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「基盤科目」を設け、科目を配置する。
- ・未来課題の解決に資する知見を獲得するために「学知科目」を設け、さらに 3 つのコアエリアに区分し、多様な分野の科目を配置する。
- ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、プロジェクト開発を行う演習等を中心とした科目を配置する。
- ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/policy/>

HOME > 入試情報・高大院接続 > アドミッション・ポリシー (Admission Policy))

(概要)

●融合学域共通

あらゆる意味で社会が変容し、従来の知識、制度、方法等が国力の維持や強化に耐えられなくなりつつあります。多様な脅威にさらされるこれからの社会では、人文・社会・自然等の科学分野を往還し、融合的な学知と他者との共創を通じて、社会の各界で『未踏のイノベーションの創成をリードする中核的リーダー』となる人材が不可欠です。本学域では、そのような人材を養成することを共通の目標としています。

●先導学類

地球規模で急速に起こっている社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表

出する複層的な諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導する人材の養成を目指しています。

-求める人材-

- ・様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人
- ・最先端の学知を連携・融合し、社会変革に資する新たな先導に挑戦したい人

●観光デザイン学類

地球規模で急速に起こっている社会の変容や価値の共感を的確に踏まえた上で、我が国の観光産業の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、Society 5.0 や新たな日常に対応し、多核連携型の国際観光立国を見据えた新たな観光価値をデザインする人材の養成を目指しています。

-求める人材-

- ・様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人
- ・最先端の学知を連携・融合し、観光に資する新たな価値創出に挑戦したい人

●スマート創成科学類

地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材の養成を目指しています。

-求める人材-

- ・様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人
- ・最先端の学知を連携・融合し、未来に資する新たな科学創成に挑戦したい人

※入試に係る取組・改善状況（金沢大学共通）

「KUGS 特別入試」では、本学が提供する「KUGS 高大接続プログラム」を受講した高校生等が、当該プログラムで課される課題レポートと、高等学校若しくは中等教育学校での探究的な学びや課題意識を持って取り組んだ各種活動に関する課題レポートを提出し、「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」（KUGS）に基づき評価を行い、基準を満たした高校生等へ「KUGS 特別入試」の出願資格のうちの1つを与える取り組みを実施。

令和8年度入学者選抜から、本学の科目等履修生＜高校生等用＞制度により1単位以上修得した者をKUGS 特別入試の出願資格へ追加。

学部等名 人間社会学域

教育研究上の目的（公表方法：本学Webサイトで公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukoukai/kyoiku/gakushi>

HOME > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報 > 学域、学類の教育研究上の目的)

(概要)

人間及び人間社会に関する普遍的真理の探求とともに、激変する複雑な社会状況の下で、人間及び人間社会が直面する諸問題の解決に貢献寄与するための教育を行い、社会に貢献しうる自発的な課題探求能力や解決能力を持ち、かつ多文化共生時代にふさわしい理解力と判断力を持った個性的な人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772>

HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー))

(概要)

●人文学類

KUGS（金沢大学〈グローバル〉スタンダード）をふまえ、本学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。

- (1) 豊かな教養と課題発見能力（☞KUGS1、5、6 に対応）
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。
- (2) 社会的応用性を備えた専門性（☞KUGS1、2、5、6 に対応）
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・修得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。
- (3) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力（☞KUGS3 に対応）
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。
- (4) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力（☞KUGS4 に対応）
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。

●法学類

本学類は、現代社会に対して幅広い関心を持ち、よりよい社会実現のために法的思考によって問題の解決策を導き出し、自発的かつ意欲的に課題発見に挑み、その探求と解決に必要な能力を備えた人材を育成することが社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、次のような目標を達成した者に、学士（法学）の学位を授与する。

公共法政策コース

- (1) 法律学・政治学の学問体系の骨格を理解している。
- (2) 法律学・政治学の基本的な科目の知識を修得している。
- (3) 卒業後の進路に応じて必要な知識を修得している。
- (4) 社会の公的枠組みを形作っている法制度や、政策形成の過程、統計的データの活用法など、公共的な制度の設計・管理・運営に必要な知識と能力を身につけている。
- (5) 問題を発見する力と、自分の主張をまとめて論証する力を身につけ、現代社会が抱える将来的課題に取り組む能力を有している。

企業関係法コース

- (1) 法律学・政治学の学問体系の骨格を理解している。

- (2) 法律学・政治学の基本的な科目の知識を修得している。
- (3) 卒業後の進路に応じて必要な知識を修得している。
- (4) 企業活動を規律する様々な法制度に関する知識など、企業活動にとって必要な知識と能力を身につけている。
- (5) 問題を発見する力と、自分の主張をまとめて論証する力を身につけ、現代社会が抱える将来的課題に取り組む能力を有している。

総合法学コース

- (1) 法律学・政治学の学問体系の骨格を理解している。
- (2) 法律学・政治学の基本的な科目の知識を修得している。
- (3) 卒業後の進路に応じて必要な知識を修得している。
- (4) 法的・政治的な現代的課題に取り組むために、高度な研究・学修を主体的に進める能力を身につけている。
- (5) 問題を発見する力と、自分の主張をまとめて論証する力を身につけ、現代社会が抱える将来的課題に取り組む能力を有している。

●経済学類

本学類は、「社会科学における諸専門分野の成果を総合化し、現代の社会が直面する諸問題に対処可能な能力を持った人材を養成する」という基本目標のもと、次の3つの人材育成方針を掲げている。

- ① 様々な問題に的確かつ迅速に対処することができる幅広い教養、知識、判断力と経済学の専門知識とを兼ね備えた人材を養成する。
- ② 現代社会に対する強い問題意識を持ち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力を持った人材を養成する。
- ③ 経済学以外の諸分野にも強い関心を持った、人間性豊かな人材を養成する。これら3つの人材育成方針をさらに具体化した、以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。

- 1. 社会で活躍できる幅広い教養、知識、判断力を身につける。
- 2. 経済学・経営学の専門知識を身につける。
- 3. 現代社会に対する強い問題意識を持ち、自分自身の力で課題を発見し、解決するための手法と能力を身につける。
- 4. 高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、情報処理能力を身につける。
- 5. 地域社会が抱える問題に強い関心を持ち、そこに積極的に関わることのできる人間性とコミュニケーション能力を身につける。

●学校教育学類

義務教育学校を中心とした学校の教員に必要な、次のような知識・技能・態度を備え、教員として学校現場の課題に応えられる人材を養成する。この人材養成目標に到達した者に学士(教育学)の学位を授与する。

教科等(道徳・特別活動を含む)の専門知識と、児童生徒の実態に合わせてそれらを教授するための知識・技能・創造的思考力。

児童生徒の実態を観察・理解し、コミュニケーションにもとづいて児童生徒の自主的自治的活動を支援するための知識・技能・態度。

学校教育・学校組織とそれを取り巻く現代社会と世界の諸問題についての知識・理解力・分析力。

自己の教員としての資質を省察し、個性的な教員としての自己形成を目指すための知識・技能・態度。

取得教員免許状の種類に応じた校種（小・中・特別支援・高等学校及び幼稚園）ごとの特徴的な教育内容と教育方法、および児童生徒等の理解と支援についての知識・技能。

教科等（道徳・特別活動を含む）の内容を理解し、児童・生徒の実態に応じた教授方法を探求することができる。（教科等）

児童生徒への理解にもとづいてコミュニケーションを行い、自主的自治的活動を支援することができる。（子ども理解）

学校教育・学校組織とそれを取り巻く現代社会と世界の諸問題について、理解し判断することができる。（学校・社会）

自己の教員としての資質を省察し、個性的な教員としての自己形成を目指すことができる。（自己省察）

取得する教員免許の校種における教育内容・教育方法の特性を理解し、校種に応じた児童生徒等の理解と支援を行うことができる。（校種）

●学校教育学類（共同教育課程）

本学類は、学校現場の課題に応えられる実践的指導力のある教員を育成することが社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類では所定の課程を修め、必要な単位を修得し、次のような目標を達成した者に、学士（教育学）を授与する。

- (1) 教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度。
- (2) 子どもへの教育的愛情と、教員としての使命感、責任感、倫理観。
- (3) 幼児期から児童・青年期における発達や特性を踏まえた児童・生徒への理解に関する知識。
- (4) 教科や教職に関する専門知識と技能。
- (5) 教育に関する理論と方法を活用し、教育実践を展開する基礎的能力。
- (6) 学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想する能力。
- (7) 学校における組織的な取り組みを理解し、学校関係者（保護者・地域住民・同僚教員・管理職など）と連携・協働する態度。

●地域創造学類

本学類では、現実の社会から提起される現代的諸課題に目を向け、それらを解決できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会、グローバルな共生社会、しなやかで折れない地域、将来にわたって持続発展する地域を実現するため、地域創造学の専門的知識と技術を修得し、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに意欲と責任をもって参加できる人材を、金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）に立脚して育成する。また、海外の地域創造情報を自ら英語で収集し発信できる人材を育成する。本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、次の学修成果を達成した者に学士（地域創造学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- ・人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための地域創造学の専門的知識を修得している。
- ・理念目標・社会的責任：対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。
- ・現状理解・把握：対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。
- ・実践論・対処方法：対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。

2. 技能・表現

- ・調査・分析方法：地域の諸課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
- ・伝達技能：他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力と他者を繋ぎ合意形成に導くコーディネーション能力を身に付けている。
- 3. 思考・判断
 - ・地域や社会の諸問題を生活から制度・政策まで多角的に分析し考察できる。
- 4. 関心・意欲
 - ・地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。
- 5. 態度
 - ・地域で暮らすすべての人に共感と尊敬をもって接することができる。

●国際学類

国際政治プログラム/国際政治 E プログラム

本学類国際政治・国際政治 E プログラムは、グローバル時代の様々な問題について多角的に考察し、国際協力への道筋を探究するために、国際社会や国家の政治制度、歴史、社会についての広い知識と洞察力を修得するとともに、自らの考えを他者に伝え、議論することのできる英語などの高いコミュニケーション能力を身につけた国際人を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類国際政治・国際政治 E プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 政治学的素養を修得し、グローバル社会における諸問題を理解することができる能力。
- (2) 自らが関心を持つテーマを研究課題として設定し、その問題を掘り下げて調査・分析し、考察した内容を口頭および文章で他者に伝えることができる能力。
- (3) 文化的・社会的背景なども踏まえて対話することのできる、外国語のコミュニケーション能力。
- (4) 自らが国際社会の一員であることを認識し、日本に関してもグローバルな視点から客観性をもって捉えることができる能力。

国際経済プログラム/国際経済 E プログラム

本学類国際経済・国際経済 E プログラムは、グローバル時代の様々な問題について多角的に考察し、国際協力や持続可能な経済発展への道筋を探究するために、国際的な経済関係や経済開発、それらに関連する政治、歴史、社会についての広い知識と洞察力を修得するとともに、自らの考えを他者に伝え、議論することのできる英語などの高いコミュニケーション能力を身につけた国際人を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類国際経済・国際経済 E プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 経済学的素養を修得し、グローバル社会における諸問題を理解することができる能力。
- (2) 自らが関心を持つテーマを研究課題として設定し、その問題を掘り下げて調査・分析し、考察した内容を口頭および文章で他者に伝えることができる能力。
- (3) 文化的・社会的背景なども踏まえて対話することのできる、外国語のコミュニケーション能力。
- (4) 自らが国際社会の一員であることを認識し、日本に関してもグローバルな視点から客観性をもって捉えることができる能力。

英語圏研究プログラム/英語圏研究Eプログラム

本学類英語圏研究・英語圏研究Eプログラムは、英語圏の歴史、社会、文化について広範な知識と深い理解を身につけ、それらを批判的に分析することでグローバル時代における諸問題について新たな見方・捉え方を提示するとともに、自らの考えを他者に伝え、議論することのできる高い英語コミュニケーション能力を身につけた国際人を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類英語圏研究・英語圏研究Eプログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 英語圏の歴史、社会、文化について高度な知識を修得し、活用できる能力。
- (2) グローバルな視点から俯瞰的に英語圏及び自国の歴史、社会、文化を捉え、批判的に考察することができる能力。
- (3) 英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築くことができる能力
- (4) 自らの論理的な思考を、正確かつ高度な英語を使って表現することができる能力。

ヨーロッパ圏研究プログラム

本学類ヨーロッパ圏研究プログラムは、ヨーロッパとその関連諸地域に対する言語コミュニケーション能力に裏打ちされた実践的知識を基礎に、価値の多様性に基づく文化的寛容を模索する現代ヨーロッパ社会の理念に学ぶ、真の国際人を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類ヨーロッパ圏研究プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 現代ヨーロッパの政治・経済・文化についての基礎的知識を修得し、将来この分野の専門職業人として活動することができる能力。
- (2) 歴史と伝統の深い根を有すると同時に、現代に生きる創造力ある世界でもあるヨーロッパ社会が産み出してきた思想、文学、芸術等の歴史的諸価値に対し、それを理解することができる豊かな感受性という資質。
- (3) ヨーロッパのみならずその関連諸地域の社会・文化の理解のもと、複眼的に世界を見ることができる能力。
- (4) 外国語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築くことができる能力。
- (5) 自らの論理的な思考を、正確かつ高度な外国語を使って表現できる能力。

アジア・日本研究プログラム

本学類アジア・日本研究プログラムは、多文化・多民族社会であるアジアの多様性と、その中に位置する日本社会を理解し、その知識に基づいて近隣諸国との緊密化する交流の一角を担うことのできる国際人を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類アジア・日本研究プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 世界情勢を偏りなく見つめ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れることができる資質と能力。
- (2) 日本およびアジア諸国の文化・社会・歴史について、グローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力。

- (3) 日本とアジア諸国の関係について、専門的知識に裏打ちされた自らの意見を持ち、両者の交流の仲介役となることができる、コミュニケーション能力。
- (4) 外国語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築くことができる能力。
- (5) 自らの論理的な思考を、正確かつ高度な外国語を使って表現することができる能力。

グローバル DEI プログラム

本学類グローバル DEI プログラムは、文化・宗教・ジェンダー・セクシュアリティ等についての学問的な知識と認識を持ち、人文科学・社会科学の素養と各種言語による高いコミュニケーション能力を身につけて、グローバル時代にふさわしい、多様な人々や価値観が共存するダイバーシティ社会の構築に寄与できる国際人を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類グローバル DEI プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 自己のアイデンティティを大切にしながら、異文化や人々の多様なあり方を受け入れることができる資質と能力。
- (2) 多様性をめぐる国際社会や日本社会の動向・あり方への強い関心・問題意識を有することができる資質と能力。
- (3) 世界のさまざまな文化や言語・宗教、あるいはジェンダー・セクシュアリティ・人権・環境等についての学問的な知識と認識を身につけて、多様な人々が参加できる社会を構築しようとするマインドとその実現に寄与できる能力。
- (4) 英語などの諸外国語及び日本語による高度なコミュニケーション能力。

日本語教育プログラム

本学類日本語教育プログラムは、グローバル時代に必要な日本語や日本語教育、日本文化についての知識を持ち、日本語を学ぶ人々の社会参画を後押しできる、実践力のある日本語教師を育成することを社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本学類日本語教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、卒業論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、学士(国際学)の学位を授与する。

- (1) 世界情勢を偏りなく見つめ、自己のアイデンティティを大切にしながら異文化を受け入れることができる資質と能力。
- (2) 日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力
- (3) 日本文化や日本語・日本語教育に対する深い理解と知識を有し、それを実践に活かせる能力。
- (4) 自国文化や母語についての深い理解を前提として、国内外で日本語を学ぶ人々に指導するための高度な知識や教授法を身につけて、それを実践できる能力。
- (5) 英語などの外国語コミュニケーション能力と、日本語による高度なコミュニケーション能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772>

HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー)

(概要)

●人文学類

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。外国語によって学際的・分野横断的に学ぶことで、継続的に外国語運用能力の向上を図る。(☞DP1、4に対応)
- (2) 人文科学、社会科学の基本的教養を身につける。人文諸学の基本研究の内容と手法を幅広く身につける。(☞DP1、2に対応)
- (3) 言語を中心とする文化の固有性や多様性ととも、人間の普遍性についての理解を深める。(☞DP4に対応)
- (4) 専門的知識を獲得するとともに、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養う。(☞DP3、4に対応)
- (5) 自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力を養う。自己の所説の説明に加えて、批評・批判・異論に耳を傾け、これに柔軟に対応できる能力を身につける。(☞DP1、2、3、4に対応)

2. 教育方法 (以下、上記の教育内容の番号に対応)

- (1) 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、必ず初習言語をひとつ以上選択する。
- (2) 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、人間社会学域および本学類での専門教育における基盤的教養を身につける。
- (3) 1年次でのGS言語科目の履修を踏まえて、2年次以降も、学域GS言語科目や、各プログラムで提供される外国語演習科目・講義科目を履修する。(☞DP4対応)
- (4) 専門科目は、講義系科目と演習系科目(プログラムによっては実験、実習、フィールド調査を含む少人数科目)に大別する。いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求める。(☞DP3、4に対応)
- (5) 専門科目での発表や討論を通じて、論理的な表現能力を高め、4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文では、共通教育と専門教育を集大成し、1年次から4年次まで修得してきた基盤的教養と専門教育における学修の成果を総合する。卒業論文演習では、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解できるように、指導する。卒業論文については口頭試問を実施する。(☞DP1、2、3、4に対応)

●法学類

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、体系的カリキュラムを編成するとともに、学年の進行にしたがって、講義・演習・実習を適切に組み合わせて、基礎的な科目から応用的・発展的な科目を履修していく階層的な学修過程を通じて基本的な知識の修得を図っている。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

公共法政策コース

1. 教育内容

- (1) 1年次には主として初学者科目や共通教育科目等を通じて主体的な学習を实践する基礎的能力を身に付ける。

- (2) 2年次には主として基本科目群（基本科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の履修を通じて、法学・政治学の基礎的知識を学ぶ。
- (3) 3・4年次には1・2年次で得た知識を基礎に、「国・地方公共団体・私人の活動を規律する法のうち、より実践的なものを対象とする専門科群」、「国家・地方公務員の行政職にとって必要な専門知識や能力（公法学分野および政治学分野）を得る専門科目群」、「法律学・政治学の発展的・応用的分野の知識を得る専門科目群」の履修を通じて、公共的な制度の設計、管理、運営に必要な専門知識や能力を修得する。

2. 教育方法

- (1) 知識の修得を主たる目的とする講義科目と、自ら問題を発見し自分の主張をまとめて論証する力を養う演習・実習科目を適切に組み合わせて教育を行う。
- (2) 特に少人数教育に力を入れ、3年次の専門演習を必修としている。

企業関係法コース

1. 教育内容

- (1) 1年次には主として初学者科目や共通教育科目等を通じて主体的な学習を実践する基礎的能力を身に付ける。
- (2) 2年次には主として基本科目群（基本科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の履修を通じて、法学・政治学の基礎的知識を学ぶ。
- (3) 3・4年次には1・2年次で得た知識を基礎に、「国・地方公共団体・私人の活動を規律する法のうち、より実践的なものを対象とする専門科群」、「企業活動にとって必要な専門知識や能力を得る専門科目群」、「法律学・政治学の発展的・応用的分野の知識を得る専門科目群」の履修を通じて、企業活動にとって必要な専門知識や能力を修得する。

2. 教育方法

- (1) 知識の修得を主たる目的とする講義科目と、自ら問題を発見し自分の主張をまとめて論証する力を養う演習・実習科目を適切に組み合わせて教育を行う。
- (2) 特に少人数教育に力を入れ、3年次の専門演習を必修としている。

総合法学コース

1. 教育内容

- (1) 1年次には主として初学者科目や共通教育科目等を通じて主体的な学修を実践する基礎的能力を身に付ける。
- (2) 2年次には主として基本科目群（基本科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の履修を通じて、法学・政治学の基礎的知識を学ぶ。
- (3) 3・4年次には1・2年次で得た知識を基礎に、「法の基礎にある理念、法の歴史、外国法の概要を学ぶ専門科目群」、「法律学・政治学の発展的・応用的分野の知識を得る専門科目群」の履修を通じて、高度な研究・学修を主体的に進めるために必要な知識を修得するとともに、判例研究または卒業論文の作成を通じて、主体的な学修態度を身につける。

2. 教育方法

- (1) 知識の修得を主たる目的とする講義科目と、自ら問題を発見し自分の主張をまとめて論証する力を養う演習・実習科目を適切に組み合わせて教育を行う。
- (2) 特に少人数教育に力を入れ、3年次の専門演習を必修としている。

●経済学類

1年次には、全学教育・国際共修機構での勉学および語学力の向上に集中するとともに、一部の専門科目を履修する。2年次から本格的に開始される専門教育のカリキュラムは、幅広い知識を会得するとともに（人材養成目標1）、各自が興味関心を深める専門

性の確立を目的にフレキシブルに履修科目が選択できるよう設計している(人材養成目標 2)。履修科目の選択に際して適切な科目選択がなされるよう、年に 2 回、アドバイザー教員と面談する機会を確保している。2 年次の Q1 から Q3 にかけては専門共通科目群を優先的に履修しつつ、2 年次 Q4 からの演習配属に向けた関心を養う。3 年次 4 月に、専門知識をより深く身につけるべく、エコノミクスコースもしくはグローバル・マネジメントコースに配属する。エコノミクスコースでは理論・政策系科目群およびグローバル系科目群の、グローバル・マネジメントコースでは、マネジメント系科目群及びグローバル系科目群を重点的に履修する。演習では、各自の関心に則して専門分野をより深く探求し、調査研究活動や論文執筆等に取り組む(人材養成目標 3、4、5)。なお、本学類で提供している科目の一部には能動的学修を導入しており(人材養成目標 3 及び 4)、また、海外語学研修やインターンシップも単位化している。

1. 教育内容

- ・幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
- ・経済学・経営学を学ぶために必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
- ・市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
- ・企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。
- ・国際経済、国際社会の動向及び外国経済事情に対する理解を深める。
- ・現代経済社会に至る形成過程及び背景を理解する。
- ・様々な経済学説や理論を修得する。
- ・国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決のための政策立案能力を養う。
- ・将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
- ・課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
- ・様々な情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を取捨選択し、有益に活用する能力を養う。
- ・社会人に必要なコミュニケーション能力、情報処理能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。

2. 教育方法

- ・経済現象は、言うまでもなく政治・環境・社会制度など経済学および経営学以外の専門領域の知見も必要とするものであることから、本学類の専任・準専任教員以外に、他部局の教員から講義科目の提供を依頼し、本学類の専門科目の単位として認めるようにしている。
- ・また、北陸財務局や日本税理士会など学外の行政機関や団体などと提携して、学外からの講師を招聘してレクチャーしてもらう講義科目を設置している。
- ・特に地域経済に関連する演習(ゼミ)に関しては、フィールドワークを重視している演習もある。

●学校教育学類

- 1) 教員養成課程であるため、教職員免許法に定める免許状の取得要件を基盤に、カリキュラムを構成する。すなわち、
 - 教育科学コース教育基礎専修においては、小学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状(教科は任意)
 - 教育科学コース特別支援教育専修においては、小学校教諭一種免許状および特別支援学校教諭一種免許状
 - 教科教育コース各専修においては、小学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状(教科は所属専修の教科)の取得要件を必修とし、高等学校・幼稚園の免許科目は選択科目として配置する。

- 2) 全学生必修の小学校免許関連科目と、教員として必要な一般的な知識・技能を修得する科目を学類共通科目として主に1年次から2年次に配置する。中学校免許 取得のための科目、および教育科学の二つの専修の基礎的な科目を、「専修基礎科目」(必修科目)としておもに2年次・3年次に配置し、専修の専門知識を深め、教育現場での応用力を高めるための「専修専門科目」(必修を含む)を主に3年次から4年次に配置し、幼稚園免許のための選択科目は4年次を中心に配置する。

学修成果

教科等(道徳・特別活動を含む)の内容を理解し、児童・生徒の実態に応じた教授方法を探求することができる。(教科等)

児童生徒への理解にもとづいてコミュニケーションを行い、自主的自治的活動を支援することができる。(子ども理解)

学校教育・学校組織とそれを取り巻く現代社会と世界の諸問題について、理解し判断することができる。(学校・社会)

自己の教員としての資質を省察し、個性的な教員としての自己形成を目指すことができる。(自己省察)

取得する教員免許の校種における教育内容・教育方法の特性を理解し、校種に応じた児童生徒等の理解と支援を行うことができる。(校種)

●学校教育学類(共同教員養成課程)

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

教育内容と教育方法(主な学修学年)

- (1) 自己確立した社会人としての教員を養成する学修
知性と良識を備え、自己の判断基準や価値基準に基づいて自律的に行動できる社会人としての教員を養成するため、幅広い基礎的な学識を提供し、仲間との交流を通じて思考力を涵養する科目を主として1年次に配置する。
- (2) 学校教育についての理解を深める学修
校種や教科などの個別領域の学びをより効果的にするために、教育制度の概要を理解し、それぞれの学生が目指す校種や教科が教育課程上そのように位置づけられるのか、学校とは何か、子どもとは何かを、幅広い視野をもって考える科目を主として2年次に配置する。
- (3) 教員としての専門知識とその実践
学生がより現実的な教員像に到達できるように、1～2年次までに学んだことを土台にして、小学校や中学校などの校種独自の科目についての専門的な知識、その教授方法の修得、さらにはこれら二つを組み合わせた教育実践という三つの段階を効果的に学べる科目を主として3～4年次に配置する。
- (4) 現代的教育課題に挑戦する学修
これからの学校教育が必要とする新しい知識や技量の獲得に、的確に対応するための科目を先進的教育科目と総称し、各段階の学修過程に配置する。
- (5) 俯瞰して「比較」する視点を備えた教員を養成する学修
個人の力では解決が困難な教育問題に、同僚とともに取り組むときに必要な、自己と他者の意見を客観的に比較する態度や、自らの実践を言語化し説明する能力を養う科目を設定する一方で、義務教育全体を俯瞰し検討できるよう、複数の教員免許の取得が可能な科目配置を行う。

●地域創造学類

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 学類基礎科目群では地域を知る基礎的な方法やリテラシーを学ぶ
- (2) 地域課題科目群では地域とその諸問題を理解し、専門的知識を修得する
- (3) 地域創造科目群では学生自身の将来像を意識させ、地域づくりのリーダーとしての素養を修得する
- (4) 演習及び実習科目群では地域を多面的に理解する調査や分析の方法を修得する
- (5) 地域創造学特別演習では多様な地域課題に対処する能力を高め、総合性を担保する
- (6) 卒業論文では修得した知識と方法を統合的に発揮して自ら発見した地域課題に向かい合う

2. 教育方法

- (1) 学生の能動的学習を積極的に促すアクティブラーニングの手法を取り入れる
- (2) 地域課題解決に実践的に取り組むための現地実習やインターンシップを配置し、フィールドワークによるプロジェクト学習や問題解決学習の手法を導入した実践的学修機会を用意する
- (3) 外国語による地域創造に関する情報の収集と発信機会を提供する

●国際学類

国際政治プログラム/国際政治Eプログラム

本学類国際政治・国際政治Eプログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 国際社会や国家の政治制度、および、その制度を支えるシステムの構造を理解し、国際機構・国家の政策やその社会を構成する組織や人々の行動を分析することに主眼を置く。
- (2) 政治学、社会学、歴史学などの学問諸領域からの知見を活かしながら、一見、局地的・単発的と思われる国際社会の問題に関してもグローバルな視点から考察する能力が養えるように授業科目を構成する

2. 教育方法

- (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。
- (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目(E科目*や言語コミュニケーション科目)を充実させるとともに、異なる価値観に接することを奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。

*E科目：英語で開講する専門教育科目

国際経済プログラム/国際経済Eプログラム

本学類国際経済・国際経済Eプログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。具体的には、教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 国際的な経済問題である国際貿易、国際金融、国際ビジネス、先進国と途上国の格差問題、持続可能な開発について、その現状とメカニズムを理解し、各国政府の政策や企業、人々の行動を分析することに主眼を置く。
- (2) 国際経済学、開発経済学を基礎に政治学、社会学、歴史学、経営学の知見を取り入れてグローバル社会における様々な経済問題をマクロ・ミクロ両面から考察し議論する能力を修得することができるように授業科目を構成する。

2. 教育方法

- (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。
- (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目（E科目*や言語コミュニケーション科目）を充実させるとともに、異なる価値観に接することを奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。

*E科目：英語で開講する専門教育科目

英語圏研究プログラム/英語圏研究Eプログラム

本学類英語圏研究・英語圏研究Eプログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。具体的には、教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 歴史学、文化人類学、および文学・文化研究の立場から、英語圏世界についての横断的かつ深い知識を獲得することに主眼を置く。
- (2) 英語運用の実践的訓練を兼ねた演習形式の授業を通じて、英語圏の歴史、社会、文化を分析し、多様な文化的背景を持つ人々との共生を目指す国際人に必要な知的基盤と能力を修得することができるように授業科目を構成する。

2. 教育方法

- (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。
- (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目（E科目*や言語コミュニケーション科目）を充実させるとともに、異なる価値観に接することを奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。

*E科目：英語で開講する専門教育科目

ヨーロッパ圏研究プログラム

本学類ヨーロッパ圏研究プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。具体的には、教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) ヨーロッパ世界とその関連諸地域の諸事象について、人文科学や社会科学の様々な研究手法を通じ認識を深めることに主眼を置く。
- (2) 上記認識の深化に併せて、英語のみならず欧州諸言語の実践的運用能力を伸ばすことを通じて、たとえば、環境、人権、福祉、観光といった諸分野で新しい試みに挑みつつけているヨーロッパの現在を、複眼的に把握する能力を修得することができるように授業科目を構成する

2. 教育方法

- (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。
- (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目（E科目や言語コミュニケーション科目）を充実させるとともに、異なる価値観に接することを

奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。

＊E 科目：英語で開講する専門教育科目

アジア・日本研究プログラム

本学類アジア・日本研究プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。具体的には、教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 日本をふくむアジア諸地域について、人文科学や社会科学の様々なアプローチを用いて分析することに主眼を置く。
- (2) 他の地域や世界の状況との比較の視座から、俯瞰的に日本やアジアの文化・社会を考察し、専門知識に裏打ちされた自らの思考を論理的に、正確かつ高度な外国語を使って表現する能力を修得することができるよう授業科目を構成する。

2. 教育方法

- (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。
- (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目（E 科目*や言語コミュニケーション科目）を充実させるとともに、異なる価値観に接することを奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。

＊E 科目：英語で開講する専門教育科目

グローバル DEI プログラム

本学類グローバル DEI プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。具体的には、教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

- (1) 現代社会における多様性や公正・共生に関する諸問題について、人文科学や社会科学の様々な研究手法を通じ認識を深めることに主眼を置く。
- (2) 多様性に富んだ公正かつインクルーシブな社会の構築に向けて、文化・宗教・ジェンダー・セクシュアリティ等に関する視野を広げ、そこで得られた知見をもとに現代社会を多層的に考察する能力を修得することができるよう授業科目を構成する。

2. 教育方法

- (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。
- (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目（E 科目*や言語コミュニケーション科目）を充実させるとともに、異なる価値観に接することを奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。

＊E 科目：英語で開講する専門教育科目

日本語教育プログラム

本学類日本語教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。具体的には、教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

1. 教育内容

(1) 日本語教育専攻資格のための専門科目を中心に学び、日本語や日本語教育、日本文化の専門知識はもちろん、「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけることに主眼を置く。 (2) グローバル時代の国際社会や日本社会についての理解と、外国語でのコミュニケーション力を生かして日本語を教える能力を修得することができるように授業科目を構成する。 2. 教育方法 (1) 学びの中心に少人数でおこなう演習を置き、課題探求型の自己学修を指導する。 (2) 現在の国際社会に必要な外国語の運用能力を培うための専門科目（E科目*や言語コミュニケーション科目）を充実させるとともに、異なる価値観に接することを奨励し、留学や異文化体験などを単位認定する。 *E科目：英語で開講する専門教育科目
入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイト上で公表 https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/policy/ HOME > 入試情報・高大院接続 > アドミッション・ポリシー（Admission Policy））
（概要） ●人文学類 本学類では、人間をその行動、思想、歴史、文化、言語、文学といった多彩な観点から考察し深く学ぶことを通じて、人間性と社会性に富む教養と課題発見能力、社会的応用性を備えた専門的知識、的確な自己表現の能力、そして多面的視野と柔軟なコミュニケーション能力を持った人材の育成を目指しています。 ●法学類 国内外の社会状況が大きく変化している現代において、法と政治に関する基本的な理念や知識は、個々人が他者と共生していくために不可欠なものとなっている。本学類では、このような認識に基づき、法学・政治学を体系的に学ぶことを通じて、現代社会が抱える諸問題を発見し、将来的課題に取り組む能力を有した人材を養成することを目指している。 ●経済学類 本学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般選抜に加えて、高校で専門教育を受けた進学希望者を対象とする KUGS 特別入試、及び超然特別入試・帰国生徒選抜・国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた人材を求めます。 ●学校教育学類 激しく変動するグローバル社会の中で、これからの学校教育における新たな学びを支える教師には、教科や教職に関する専門的知識及び実践的指導力に加え、絶えず、自律的に学び続け、学校を取り巻く現団社会の変化や諸問題を的確に把握し、使命感を持って課題解決にあたる姿勢が求められます。また、様々な社会的背景を持った多様な子どもたちに向き合い、より深く、共感的に理解しつつ、子どもの発達等に関する専門的知見を踏まえながら、一人一人の子供たちのニーズに応じた対応が求められます。本学類では、こうした力量を持った義務教育段階の諸学校の教師を組織的、計画的に要請することを主たる目標としており、専門職としての教師への熱意にあふれ、かつ地域における文化の形成に寄与する人材を求めます。 ●学校教育学類（共同教員養成課程）

本学類では、義務教育段階の諸学校の教師を養成することを目的としており、専門職としての教師を目指す熱意にあふれ、仲間と協力しながら専門的能力・技能を伸ばしていける人材を求めている。

●地域創造学類

本学類は、地域の自然、文化、住環境、人材、産業、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、持続可能で質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を育成します。

プログラムの選択は、2 年次終了までに本人の問題関心と将来像及び学業成績等考慮して決定します。

●国際学類

本学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外の NPO・NGO で経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わりたい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感力、国際的な場におけるコミュニケーションに必要な外国語運用能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標とします。

本学類には国際関係・国際協力系、地域研究系、インクルーシブ社会構築系という 3 つの系に大別される複数のプログラムがあり、そのうちのいくつかは英語のみで卒業できます。

※入試に係る取組・改善状況（金沢大学共通）

「KUGS 特別入試」では、本学が提供する「KUGS 高大接続プログラム」を受講した高校生等が、当該プログラムで課される課題レポートと、高等学校若しくは中等教育学校での探究的な学びや課題意識を持って取り組んだ各種活動に関する課題レポートを提出し、「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」(KUGS) に基づき評価を行い、基準を満たした高校生等へ「KUGS 特別入試」の出願資格のうちの 1 つを与える取り組みを実施。

令和 8 年度入学者選抜から、本学の科目等履修生＜高校生等用＞制度により 1 単位以上修得した者を KUGS 特別入試の出願資格へ追加。

学部等名	理工学域
教育研究上の目的 教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトで公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku/gakushi HOME > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報 > 学域、学類の教育研究上の目的）	
（概要） 基礎科学と工学の先進的な研究を通して理工学の高度な専門知識を育み、高い倫理性と豊かな教養を備え、課題探求能力と国際感覚をもって自然環境と調和のとれた科学と技術の発展を目指し、人類幸福のため世界で活躍する個性輝く人材を養成することを目的とする。	
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表 https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772 HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 3 つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー）	

(概要)

●数物科学類

急速な発展を遂げつつある新しい数学・物理学の発展に貢献できる人材を育成するとともに、論理的思考能力をもって物事を根本から考え、社会の様々な分野において未知の問題に果敢に挑戦できる人材を育成する。数学系の学修経験では、数理的なものの見方、思考法および洞察力を身につけ、教育、情報・通信、製造・開発、金融をはじめ、高度情報化社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。物理学系の学修経験では、知識のみならず広く情報を集め、それらを再構成し、その中から問題を発見し、解決方法を見出す能力を身につけ、さらに様々な議論に基づき自分の考えや意見をまとめ、それを適切に他者に伝える能力を身に付けた人材を育成する。計算機シミュレーション系の学修経験では、数学・物理学の基礎理論の修得とコンピュータの実習を通じて、基礎科学と応用技術の2つの側面を持つ応用数理・計算科学を様々な分野に応用できる人材を育成する。本学類では、これらの人材養成目標に到達した者に学士(理学)の学位を授与する。

●物質化学類

□先端化学コアプログラム

物質の化学的性質・構造・反応などに関する基礎的原理や実験技術と合わせて広範な自然科学の素養を修得し、未来の科学を支えるために独自に考える力と自然に対する好奇心を持ち、発見の感動を味わうことに価値を見いだすことができる人材を養成する。金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) 及びこの人材養成目標に到達した者に学士(理学)の学位を授与する。

□応用化学コアプログラム

応用化学の研究者及び技術者として必要な知識と技術、化学的な思考力・創造力、実際問題への応用能力を修得するとともに、工学倫理や環境に対する責任を自覚し、社会でリーダーシップを発揮できる人材を養成する。加えて、研究を通して得た成果を広く世界に向けて発信し、社会や自然界へ応用する能力を養う。金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、本コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士(工学)の学位を授与する。

●機械工学類

□機械創造コース

本コースは、従来の機械の概念を超えた革新的な機械を創造できる人材を育成することが社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本コースでは、機械工学の基幹的な科目の修得に加え、加工学、材料工学、設計学などの高度な専門分野を修め、必要な単位を修得し、学士論文の審査及び試験に合格し、本コースが定める目標を達成した者に、学士(工学)の学位を授与する。

□機械数理コース

本コースは、機械工学における新しい技術分野に挑戦し、斬新なアイデアを意欲的に創成できる人材を育成することが社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本コースでは、機械工学の基幹的な科目の修得に加え、機械設計・制御などの応用・実践的学修を通して高度な専門分野を修め、必要な単位を修得し、学士論文の審査及び試験に合格し、本コースが定める目標を達成した者に、学士(工学)の学位を授与する。

□エネルギー機械コース

本コースは、安全で環境負荷の小さい機械技術を開発・応用し、持続可能社会の構築と発展に貢献できる人材を育成することが社会から期待されている。

そうした人材を育成するために、本コースでは、機械工学の基幹的な科目の修得に加え、

エネルギー変換、エネルギーシステム、省エネルギー、資源循環などの応用・実践的学修を通して高度な専門分野を修め、必要な単位を修得し、学士論文の審査及び試験に合格し、本コースが定める目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

●フロンティア工学類

本学類では、機械工学、化学工学、電子情報工学にわたる幅広い専門知識を修め、ナノの世界から宇宙空間や人間社会にわたるまでの様々な未踏領域を切り拓き、グローバルな観点（金沢大学グローバルスタンダード；KUGS）から、工学の飛躍的な発展と、近未来社会の創造を牽引していくエンジニアや研究者を養成する。そのような人材を育成するために、以下に掲げる学修成果を達成し、所定の単位数を修得して卒業プロジェクト論文の審査に合格した者に学士（工学）を授与する。

●電子情報通信学類

□電気電子コース

電磁気学、電気回路および電子回路などの電気電子分野の基礎学問を学修した上で、最先端の電気エネルギー技術、半導体・材料技術、電子・光素子技術、集積回路技術、電波通信・信号処理技術、制御技術の基礎知識取得と実践を通じて、工学のもつ倫理的責任を理解した人材を育成する。それらの知識を生かし、創造力豊かで新分野開拓に意欲を持つ自立した電気電子技術者・研究者を養成する。

金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、英語能力の基準を満たし、本コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

□情報通信コース

先端的な情報通信及び量子情報処理に必要な知識と技術を身につけ、当該分野に関して創意工夫と新分野開拓を行い、第4次産業革命及び超スマート社会（Society 5.0）や Beyond Society 5.0 を担う技術者、研究者、データサイエンティストをデジタル・量子 ICT 研究開発人材として養成する。金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、英語能力の基準を満たし、本コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

●地球社会基盤学類

□地球惑星科学コース

地球をとりまく自然現象に関する理解の深化に果敢に挑む冒険心、人間社会と自然とのより良い共生のあり方を模索し続ける探求心、魅力ある都市・環境づくりへのチャレンジ精神をもち、持てる知識全てを総合的に活かして、地球、環境、防災、都市、社会基盤に関する調査・研究・開発ができる人材を育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた目標を通じて、学類の人材養成目標に到達した者に学士（理学）の学位を授与する。

□土木防災コース・環境都市コース

地球をとりまく自然現象に関する理解の深化に果敢に挑む冒険心、人間社会と自然とのより良い共生のあり方を模索し続ける探求心、魅力ある都市・環境づくりへのチャレンジ精神をもち、持てる知識全てを総合的に活かして、地球、環境、防災、都市、社会基盤に関する調査・研究・開発ができる人材を育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた目標を通じて、学類の人材養成目標に到達した者に学士（工学）の学位を授与する。

●生命理工学類

□生物科学コース

本学類では、金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）に基づきグローバル社会をリードする人材育成のため、生物学、バイオ工学及びそれらを支援する生命情報学の観点から教育を行うことで、生命と生態系システムの構築と作動原理を解き明かす研究者と、水

産業を含む様々なバイオ関連産業に貢献する新技術を開発する技術者、及び次世代の人材を育成する教育者を養成する。本コースでは、KUGS 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、本コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（理学）の学位を授与する。

□海洋生物資源コース

本学類では、金沢大学＜グローバル＞スタンダード(KUGS)に基づきグローバル社会をリードする人材育成のため、生物学、バイオ工学及びそれらを支援する生命情報学の観点から教育を行うことで、生命と生態系システムの構築と作動原理を解き明かす研究者と、水産業を含む様々なバイオ関連産業に貢献する新技術を開発する技術者、及び次世代の人材を育成する教育者を養成する。本コースでは、KUGS 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、本コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（理学）の学位を授与する。

□バイオ工学コース

本学類では、金沢大学＜グローバル＞スタンダード(KUGS)に基づきグローバル社会をリードする人材育成のため、生物学、バイオ工学及びそれらを支援する生命情報学の観点から教育を行うことで、生命と生態系システムの構築と作動原理を解き明かす研究者と、水産業を含む様々なバイオ関連産業に貢献する新技術を開発する技術者、及び次世代の人材を育成する教育者を養成する。本コースでは、KUGS 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、本コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772>

金沢大学 > 教育・学生支援・学生生活 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー)

（概要）

●数物科学類

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系的な構造を明示する。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育方法

本学類では数学・物理学に加えて計算機シミュレーションも学ぶことでバランスのとれた能力を身につけることができるよう、学修段階に沿って自分の興味や適性にあった進路選択ができる。

2. 教育内容

初年度に現代数学の基礎となる「微分積分学」「線形代数学」と物理分野を概観する「物理学」を学ぶ。2年次では、数学基礎または物理学基礎のいずれかの基礎プログラムを選択し、数学あるいは物理学の基礎を身につけるとともに計算機シミュレーションの基礎を学ぶ。3年次には、数学、応用数理、計算科学、物理学の4つの発展プログラムから選択し、数学・物理学を重点的に、あるいは融合的に、自由に学修することができる。最終学年では課題研究として各自が興味を持つ研究テーマに従って、より専門的な課題に取り組む。

●物質化学類

□先端化学コアプログラム

【教育課程編成に関する基本的考え方】

2年次の後期に選択するコアプログラムの科目を履修する上で必須となる基礎知識の修得を目的として、1年次および2年次の前期には全学生必修の専門基礎科目を編成した。2年次の後期から始まるコアプログラムでは、化学の専門的職業人として必要な自然科学の素養として「基礎学力（目標A）」を養う基礎科目群とともに、現代化学全般を体系的に修

得する中で「化学的な研究能力と問題解決力（目標 B）」を養う専門科目群を配置した。また、「情報発信型人材育成（目標 C）」を目標として、ゼミナールや課題研究を中心としたプレゼンテーション能力及び国際コミュニケーション能力を養成する科目群を編成した。

また、コアプログラムから独立したアドバンスプログラムでは 6 つの主題にグループ化された発展的な専門科目群を配置した。プログラムを組み合わせるカリキュラムと、4 年次で研究室に所属して取り組む課題研究により、化学に関する最先端の知識と実験技術を身につけることができる科目群を編成した。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

以下に示す目標に対し、全ての専門教育科目はカリキュラムマップ及びツリーによって、その科目修得がどの目標に該当するのか明示している。特に専門教育科目内のコア科目群は全ての目標を達成するために不可欠なものとなる。一方でコアプログラムから独立したアドバンスプログラムにおけるアドバンス科目群は各アドバンスプログラムの学修・教育目標を達成するだけでなく、以下の目標 B-2、B-3 の達成を補完することになる。即ち、いずれのアドバンスプログラムを修了しても、卒業単位修了要件を満たすことで、以下の目標を達成することができる。

A-1. 科学に携わる研究者・技術者および教育者の素養として、数学、物理学、化学を中心とした自然科学の幅広い基礎知識を身につける。

B-2. 化学の専門的職業人として必要な物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、放射化学、生物化学、錯体化学の基礎学力と化学的研究能力を身につけるとともに問題解決力を養う。

B-3. 新しい機能をもった物質の創造、効率的な有機合成反応と生体分子の機能の解明、分析理論の構築と自然界の元素循環の機構の解明の 3 分野に対応した実験や講義を通して、物質の性質・構造・反応など原子・分子レベルでおこる諸問題を解決する化学的素養を身につけ、研究者および教育者としてさまざまな分野でリーダーとして活躍できる能力を養う。

C-4. 持続可能な豊かな社会を創成する社会的責任と倫理を自覚し、自然科学の社会的役割の理解と社会に及ぼす影響を考え得る素養を養う。

C-5. 研究室の中で大学院学生とともにゼミナールや課題研究を通してコミュニケーション能力とリーダーとしての資質を養う。

C-6. 国際的に通用する化学の研究者・専門的職業人として必要な語学能力の基礎とコンピュータ利用技術を身につける。

アドバンスプログラムについては下記の 6 つを選択履修することができる。

- 1) 先端解析化学
- 2) 分子創成化学
- 3) ナノ超分子化学
- 4) 創エネルギー化学
- 5) グリーン・サステナブルケミストリー
- 6) マテリアルサイエンス

□応用化学コアプログラム

【教育課程編成に関する基本的考え方】

2 年次の後期に選択するコアプログラムの科目を履修する上で必須となる基礎知識の修得を目的として、1 年次および 2 年次の前期には全学生必修の専門基礎科目を編成した。2 年次の後期から始まるコアプログラムでは、科学技術に携わる研究者および技術者に必要な「基礎学力と社会的倫理観（目標 A）」を養う基礎科目群とともに、応用化学の専門的職業人に求められる「化学的スキルと工学的センス（目標 B）」の修得を目標とした専門科目群を配置した。また、社会における実践的能力として「創造的思考力と行動力（目標 C）」を養成するために、課題探究型の実験・実習やプレゼンテーション能力及び国際コミュニケーション能力を養成する科目群を編成した。

アドバンスプログラム：6 つの主題にグループ化された発展的な専門科目群を配置し

た。プログラムを組み合わせで学修するカリキュラムと、4 年次で研究室に所属して取り組む課題研究により、化学に関する最先端の知識と実験技術を身につけることができる科目群を編成した。

また、コアプログラムから独立したアドバンスプログラムでは 6 つの主題にグループ化された発展的な専門科目群を配置した。プログラムを組み合わせで学修するカリキュラムと、4 年次で研究室に所属して取り組む課題研究により、化学に関する最先端の知識と実験技術を身につけることができる科目群を編成した。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

以下に示す目標に対し、全ての専門教育科目はカリキュラムマップ及びツリーによって、その科目修得がどの目標に該当するのか明示している。特に専門教育科目内のコア科目群は全ての目標を達成するために不可欠なものとなる。一方でコアプログラムから独立したアドバンスプログラムにおけるアドバンス科目群は各アドバンスプログラムの学修・教育目標を達成するだけでなく、以下の目標 B-4 の達成を補完することになる。即ち、いずれのアドバンスプログラムを修了しても、卒業単位修了要件を満たすことで、以下の目標を達成することができる。

A-1. 工学に携わる研究者・技術者の基本的な素養として、数学、物理学、化学を中心とした自然科学の基礎知識を身につける。

A-2. 環境に調和した未来志向型化学の創成を目指す研究者・技術者としての責任と倫理を自覚し、地球的・国際的視点から自然科学や工学の社会的役割の理解と 社会に及ぼす影響を考え得る素養を養う。

B-3. 応用化学の専門的職業人として必要な物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、高分子化学の基礎学力とスキルを身につけるとともに化学的思考力を養う。

B-4. 環境対応型研究、高度選択型研究、超分子創成型研究の 3 分野に対応した実験や講義を通して、高度に専門的な問題に対応するための応用化学的センスを身につけ、生涯学び続ける意欲を養う。

B-5. 工業系科目を通して工学の基礎知識とセンスを養い、異分野においても応用化学の専門家として自在に対応できる応用力を身につける。

C-6. 幅広い産業の根幹で活躍できる人材の養成を目指して、グループ研究や創成実験、さらに卒業研究を通してチームワークの重要性を体感し、コミュニケーション能力とリーダーとしての資質を養う。

C-7. “エコ化学によるモノづくり”の観点から、特に、エネルギー・環境・モノづくりに関連した応用化学の技術的諸問題に対する解析能力、問題解決のための計画立案・遂行能力を養う。

C-8. 応用化学の専門的職業人として国際的に通用するために必要な語学能力の基礎とコンピュータ利用技術を身につける。

アドバンスプログラムについては下記の 6 つを選択履修することができる。

- 1) 先端解析化学
- 2) 分子創成化学
- 3) ナノ超分子化学
- 4) 創エネルギー化学
- 5) グリーン・サステイナブルケミストリー
- 6) マテリアルサイエンス

●機械工学類

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本学類各コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

□機械創造コース

1. 教育内容

（科目群 A）工学や科学の基礎となる数学・物理学を重視した自然科学の基礎知識の修得および、自主性、創造性、協調性、発表・報告能力、国際的コミュニケーション能力、技術倫理についての自覚と、地球的観点から多面的に考えることができる素養を涵養する。

（科目群 B）機械工学分野の技術者として必要な、設計、計測・制御、材料・加工、熱流体など機械工学の基幹的な専門科目群および機械工学の実践に必要なスキルと最新の工学ツールを使いこなせる実践能力を身に付ける。

（科目群 C）従来の機械の概念を超えた革新的な機械を創造できる能力を育成するため、加工学、材料工学、設計学に重点を置いた学修を通して、課題発見・解決能力および自主学修能力を身に付ける。

2. 教育方法

（科目群 A）機械工学の高い専門性を学び理解するための礎となる数学、物理学を中心とした教育に重点を置くと共に、技術者として必要な課題探求能力やコミュニケーション能力に焦点を当てた科目を実施する。

（科目群 B）座学、演習、実験、実習を通し、機械工学分野を構成する幅広い専門分野の基礎的内容を包括的に学修する。

（科目群 C）機械の加工や、生産システム、材料などの革新的な機械を想像（創造）するために不可欠な応用専門科目および、卒業研究等の総合的な実践科目を行う。

□機械数理コース

1. 教育内容

（科目群 A）工学や科学の基礎となる数学・物理学を重視した自然科学の基礎知識の修得および、自主性、創造性、協調性、発表・報告能力、国際的コミュニケーション能力、技術倫理についての自覚と、地球的観点から多面的に考えることができる素養を涵養する。

（科目群 B）機械工学分野の技術者として必要な、設計、計測・制御、材料・加工、熱流体など機械工学の基幹的な専門科目群および機械工学の実践に必要なスキルと最新の工学ツールを使いこなせる実践能力を身に付ける。

（科目群 C）機械工学における新しい技術分野に挑戦し、斬新なアイデアを意欲的に創成できる能力を育成するため、機械設計・制御などの応用・実践的科目に重点を置いた学修を通して、斬新なアイデアを意欲的に創成する能力を涵養する。

2. 教育方法

（科目群 A）機械工学の高い専門性を学び理解するための礎となる数学、物理学を中心とした教育に重点を置くと共に、技術者として必要な課題探求能力やコミュニケーション能力に焦点を当てた科目を実施する。

（科目群 B）座学、演習、実験、実習を通し、機械工学分野を構成する幅広い専門分野の基礎的内容を包括的に学修する。

（科目群 C）機械設計や制御理論、電気・電子工学などの、機械工学における新し分野に挑戦するために不可欠な応用専門科目および、卒業研究等の総合的な実践科目を行う。

□エネルギー機械コース

1. 教育内容

（科目群 A）工学や科学の基礎となる数学・物理学を重視した自然科学の基礎知識の修得および、自主性、創造性、協調性、発表・報告能力、国際的コミュニケーション能力、技術倫理についての自覚と、地球的観点から多面的に考えることができる素養を涵養する。

（科目群 B）機械工学分野の技術者として必要な、設計、計測・制御、材料・加工、熱流体など機械工学の基幹的な専門科目群および機械工学の実践に必要なスキルと最新の工学ツ

ールを使いこなせる実践能力を身に付ける。

(科目群 C) 安全で環境負荷の小さい機械技術を開発・応用し、持続可能社会の構築と発展に貢献するために必要な多面的な視野と総合的な思考力を育成するため、エネルギー変換、エネルギーシステム、省エネルギー、資源循環などの応用的な専門科目に重点を置いた学修を通して、課題発見・解決能力および自主学修能力を身に付ける。

2. 教育方法

(科目群 A) 機械工学の高い専門性を学び理解するための礎となる数学、物理学を中心とした教育に重点を置くと共に、技術者として必要な課題探求能力やコミュニケーション能力に焦点を当てた科目を実施する。

(科目群 B) 座学、演習、実験、実習を通し、機械工学分野を構成する幅広い専門分野の基礎的内容を包括的に学修する。

(科目群 C) 熱力学や伝熱学、エネルギー工学などの持続可能社会の構築と発展に貢献するために必要な応用専門科目および、卒業研究等の総合的な実践科目を行う。

●フロンティア工学類

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本学類では、近未来社会を先端科学技術で切り拓く人材を育成するために、工学の未踏領域（フロンティア）を分野境界の融合及び分野統合により開拓する素養を身につけるためのカリキュラムを編成した。コース制は採用せず、学生は履修科目を組み合わせた「プログラム」を、自身のキャリア設計に基づいて複数修得する。2年次には、主に工学基礎科目群ならびにコアプログラム（電子情報機械、人間機械、マテリアルのいずれか、あるいは複数）を修得し、工学各専門分野の基礎を学ぶ。続いて、3年次において、発展的な基本フロンティアプログラム（知能機械、ヒューマンメカトロニクス、マテリアルデザインのいずれか、あるいは複数）の修得のほか、これらの境界・統合領域にあたる2つの副フロンティアプログラム（先端横断、先進物理計測）を組み合わせる。さらに、4年次においては、「ラボ」（異分野融合を前提とした柔軟性の高い研究チーム）に配属し、コアプログラム、フロンティアプログラムの修得を通じて身につけた異分野の知識を融合・活用し、先端分野研究に関する「卒業プロジェクト」を自ら立案・計画し、教員の指導のもと取り組む。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

各プログラムにおける教育内容はそれぞれ以下の通りである。いずれのプログラムにおいてもアクティブラーニングや授業の英語化を積極的に取り入れることで、DPで述べた学修成果を達成する環境を整備するとともに、金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）に基づくカリキュラム編成を行う。

(1) コアプログラム

電子情報機械コアプログラム：DPで述べた電子情報工学及び機械工学の専門基礎知識を修得するために、基礎力学、設計製図、メカトロニクス、制御工学、論理回路、数値解析などの科目を配置。

人間機械コアプログラム：DPで述べた機械工学の専門基礎知識を修得するために、材料力学、流れ学、熱力学、振動工学、機械設計工学などの科目を配置。

マテリアルコアプログラム：DPで述べた化学工学の専門基礎知識を修得するために、プロセス工学、伝熱工学、熱力学、物理化学、単位操作などの科目を配置。

(2) フロンティアプログラム

知能機械：機械工学から電子情報分野にわたる知識・スキルを駆使し、ロボットなど自律化が望まれる機械の高度知能化に取り組む能力を持つ人材を育成する。ロボティクスに関する知識と技術を身につけるために、ロボット工学、航空宇宙工学、画像処理、数値シミュレーションなどの科目群を配置。また、機械設計演習、機械工作実習、応用プログラミングなどの応用系の科目群も配置。

ヒューマンメカトロニクス：安心・安全・快適・便利な生活を支える様々な人間支援技

術とその社会実装プロセスを学び、人間に密着した機械工学分野に活用する応用力を持つ人材を育成する。そのために、制御工学、振動工学などの計測制御科目群、人体科学、人間工学などの医用生体工学に関する科目群、ならびに、それらの社会実装に関する科目群を配置。

マテリアルデザイン：新素材やナノテクノロジー分野において、物質（マテリアル）の持つ様々な性質やそれらの工業的応用等について学び、マテリアルの性質を極限まで引き出すための技術を身につけた人材を育成する。マテリアルが有する機能とそのモノづくり（＝プロセス）を学ぶために、マテリアルの性質とプロセスに関する科目である、プラスチック成形加工、高分子材料物性、反応工学、微粒子工学、デジタル化学工学などの科目を配置。

先進物理計測：超スマート社会を実現するためのセンシング技術およびナノオーダーの分解能を持つ先端計測技術について学び、生体計測や材料計測などの最先端の知識を身につけた人材を育成する。計測技術やナノテクノロジーに関連する生体計測、環境計測、スペクトロスコーピー（分光分析）、マイクロスコーピー（顕微鏡分析）などの科目を配置。

先端横断：機械工学、化学工学、電子情報工学の各分野の基礎となるコアプログラム科目を配置。自身のキャリアの基盤となるコアプログラムに加えて、複数の分野についての専門基礎知識をあわせて習得する。幅広い工学分野にわたる専門知識を駆使して、ナノの世界から宇宙空間までを対象とした様々な未踏領域を切り拓くエンジニアや研究者を育成する。

2. 教育方法

- (1) 講義科目では、専門知識を問う試験の結果をもって評価する。
- (2) 実験科目では、測定の原理に対する理解度、理論的な考察等の質をもって評価する。
- (3) 演習科目では、ディスカッション力、プレゼンテーション力等の質をもって評価する。
- (4) 卒業プロジェクトでは主任指導教員1名を置き、研究指導・助言を適宜行う。

●電子情報通信学類

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系的な構造を明示する。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

□電気電子コース

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目（44単位以上）

持続的発展可能な未来社会を担う電気電子工学分野の技術者・研究者を養成するために、基礎となる導入科目、GS科目、GS言語科目、自由履修科目、基礎科目、初習言語科目を設ける。

- (2) 専門教育科目（80単位以上）

・持続的発展可能な未来社会を担う電気電子工学分野の技術者・研究者を養成するために、基礎となる学域GS科目（8単位以上）、学域GS言語科目（2単位）を設ける。

・電気電子科目について体系的に学ぶ（学修成果1）ことができるように専門基礎科目を設ける。

・先進的な技術革新や社会的要求の変化にも対応できる専門的能力（学修成果2、3、5）が身につけられるようコース科目（電気電子）を配置した。

・電気電子技術者としての実践能力を高める（学修成果3）ための実験・演習科目として実践科目等と、独創性・社会性を醸成する（学修成果4、5）ための総合科目を加えてカリキュラムを編成している。

2. 教育方法

- (1) 講義科目では、電気電子工学分野の理論を学修し、定期試験、レポート等を課す。
- (2) 実験科目では、電子情報通信技術に関する実験原理、および実験結果に対する理論的な考察力を学修し、レポート等を課す。
- (3) 演習科目では、電子情報通信技術に関する専門知識の演習課題のレポートやプレゼンテーション等を課す。
- (4) 卒業研究については、論文と研究発表を課す。

□情報通信コース

1. 教育内容

(1) 共通教育科目 (44 単位以上)

量子情報、IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学分野において第 4 次産業革命及び超スマート社会 (Society 5.0) や Beyond Society 5.0 を担う技術者、研究者やデータサイエンティストを養成するために、基礎となる導入科目、GS 科目、GS 言語科目、自由履修科目、基礎科目、初習言語科目を設ける。

(2) 専門教育科目 (80 単位以上)

- ・デジタル・量子 ICT 研究開発人材 (量子技術を修得したデジタル ICT 研究開発人材) の育成を掲げ、両分野の基盤領域・応用領域を構成する科目群を設ける。
- ・量子情報、IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学分野において第 4 次産業革命及び超スマート社会 (Society 5.0) や Beyond Society 5.0 を担う技術者、研究者やデータサイエンティストを養成するために、基礎となる学域 GS 科目 (8 単位以上)、学域 GS 言語科目 (2 単位) を設ける。
- ・導入として専門知識の修得に必要な数理情報や自然科学などの基礎的な科目 (学修成果 1) を専門基礎科目として配置する。
- ・専門知識と理論の理解 (学修成果 2)、そして実践的な技術の修得 (学修成果 3、4、5、6、7) のために、量子情報、IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学の専門科目として学類共通科目 (専門) 群とコース科目 (情報通信) 群を、及び、各分野に則した実験・演習科目として実践科目群を配置する。
- ・より高度な実験・演習科目と課題研究として実践科目と総合科目を配置することで、問題発見・解決能力を身につける (学修成果 3、4、5、6、7、8) ことができるように編成している。

2. 教育方法

- (1) 講義科目では、情報通信工学分野の理論を学修し、定期試験、レポート等を課す。
- (2) 実験科目では、電子情報通信技術に関する実験原理、および実験結果に対する理論的な考察力を学修し、レポート等を課す。
- (3) 演習科目では、電子情報通信技術に関する専門知識の演習課題のレポートやプレゼンテーション等を課す。
- (4) 卒業研究については、論文と研究発表を課す。

●地球社会基盤学類

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系的な構造を明示する。

【教育内容・教育方法 (教育課程実施) に関する基本的考え方】

□地球惑星科学コース

1. 教育内容

本コースでは、学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、「地球や惑星を構成する物質やその循環」、「地球環境の変遷と生命の歴史」、「地震や火山などの地球・惑星内部や表層のダイナミクス」の理解に必要となる基礎知識を2年次第3・第4クォーターに、より高度な内容や地球惑星科学の特徴である現場での情報収集、解析手法を3年次に、学生の能動的学修を積極的に促すためのアクティブラーニングの手法を交えながら、修得する。具体的には、「地球や惑星を構成する物質やその循環」に関しては、2年次第3・第4クォーターに、基礎地球惑星物質学、基礎岩石学、鉱物・結晶学演習、岩石学実験等、3年次に鉱物学、岩石学、地球学野外調査法、地球物質分析実験を配置する。「地球環境の変遷と生命の歴史」に関しては、2年次第3・第4クォーターに、基礎環境変動学、地球惑星データ解析、3年次に、層位・古生物学、地球環境学、環境地球化学、試料解析実験等を配置する。この二つのテーマの共通項である地球化学に関する内容として、3年次に同位体地球学、地球化学実験等を配置する。「地震や火山などの地球・惑星内部や表層のダイナミクス」に関しては2年次第3・第4クォーターに、基礎地球惑星物理学、3年次に地球惑星物理学、数理地球惑星科学、地球物理実験、応用地球物理実験等等を配置する。さらに、これらの知識や実験手法を実際に活用・応用するものとして4年次に課題研究（卒業論文）及び文献演習を配置する。

2. 教育方法

- (1) 講義科目では、専門知識を学修し、その理解を問う試験・レポートを課す。
- (2) 実験科目及び演習科目では、調査・実験手法の理解度、観察力、理論的な考察力及びプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を養う。
- (3) 課題研究及び文献演習では主任指導教員1名を置き、研究及び英文論文読解の指導、助言を適宜行う。

□土木防災コース

1. 教育内容

本コースでは、2年次第1・第2クォーターで地球社会基盤学類共通科目、2年次第3・第4クォーターで土木防災コース・環境都市コースの共通科目を配置して『学修目標：専門基礎学力』を目指し、環境・都市工学も含めて土木・防災工学の幅広い局面で必要となる専門知識の基礎を階層的に教授する。

専門基礎科目修得後の3年次及び4年次第1・第2クォーターには、環境都市コースと連携しつつ、本コースの特徴である「高度な社会活動を支える社会基盤施設（インフラストラクチャー）の調査・設計・施工・維持管理」に関わる専門的応用科目に重点を置き、専門知識をより深く学び、『学修目標：専門基礎学力』の充実を図るとともに、それらの知識の活用を志向した『学修目標：思考・判断』に関連する科目群を配置する。また、幅広い専門知識を活用し、現在と未来の課題に対して問題解決型のデザイン教育科目を設定し、共同作業によるチームワーク力を鍛えるとともに、実践的な教育を通して『学修目標：関心・意欲』の修得に取り組んでいる。さらに、特定の科目だけに留まらず、主要な専門科目やデザイン教育科目において技術者倫理の話題を取り上げ、カリキュラム内で横断的・連続的に『学修目標：態度・倫理』を身につけさせる構成としている。

1年次から3年次にわたるさまざまな実験・実習科目における実践を通して『学修目標：技能・表現・行動』を身につけさせ、4年次の社会基盤工学卒業研究ではカリキュラムの総まとめと位置づけ、指導教員の下で特定のテーマについて理解の深化を図らせる。なお、本カリキュラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準を満たす内容のプログラムである。また、建築学副専攻の履修により建築学の基礎を学び、建築士の受験資格を得るための学力を身につけることも可能である。

2. 教育方法

- (1) 講義科目では、専門知識を学修し、その理解を問う試験・レポートを課す。
- (2) 実験科目及び演習科目では、演習や実験のプロセスにおいて論理的思考・ディスカッ

ション・プレゼンテーションの能力等を養う。

(3) 卒業研究では主任指導教員 1 名を置き、多角的な視点から指導・助言を行う。

□環境都市コース

1. 教育内容

本コースでは、2 年次第 1・第 2 クォーターで地球社会基盤学類共通科目、2 年次第 3・第 4 クォーターで土木防災コース・環境都市コースの共通科目を配置して『学修目標：専門基礎学力』を目指し、土木・防災工学も含めて環境・都市工学の幅広い局面で必要となる専門知識の基礎を階層的に教授する。

専門基礎科目修得後の 3 年次及び 4 年次第 1・第 2 クォーターには、土木防災コースと連携しつつ、本コースの特徴である本コースの特徴である「都市・地域に関わる社会活動の調査・計画」、「都市などにおける環境の維持と廃棄物の処理・再生」に関わる専門的応用科目に重点を置き、専門知識をより深く学び、『学修目標：専門基礎学力』の充実を図るとともに、それらの知識の活用を志向した『学修目標：思考・判断』に関連する科目群を配置する。また、幅広い専門知識を活用し、現在と未来の課題に対して問題解決型のデザイン教育科目を設定し、共同作業によるチームワーク力を鍛えるとともに、実践的な教育を通して『学修目標：関心・意欲』の修得に取り組んでいる。さらに、特定の科目だけに留まらず、主要な専門科目やデザイン教育科目において技術者倫理の話題を取り上げ、カリキュラム内で横断的・連続的に『学修目標：態度・倫理』を身につけさせる構成としている。

1 年次から 3 年次にわたるさまざまな実験・実習科目における実践を通して『学修目標：技能・表現・行動』を身につけさせ、4 年次の社会基盤工学卒業研究ではカリキュラムの総まとめと位置づけ、指導教員の下で特定のテーマについて理解の深化を図らせる。なお、本カリキュラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準を満たす内容のプログラムである。また、建築学副専攻の履修により建築学の基礎を学び、建築士の受験資格を得るための学力を身につけることも可能である。

2. 教育方法

(1) 講義科目では、専門知識を学修し、その理解を問う試験・レポートを課す。

(2) 実験科目及び演習科目では、演習や実験のプロセスにおいて論理的思考・ディスカッション・プレゼンテーションの能力等を養う。

(3) 卒業研究では主任指導教員 1 名を置き、多角的な視点から指導・助言を行う。

●生命理工学類

□生物科学コース

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、専門教育科目を体系的に編成し、各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学修や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。また、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、課題研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、本コースで

は分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し利活用する技術を幅広く学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、課題研究に取り組む。

2. 教育方法

座学、演習、実験、実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。さらに、課題研究を通して、研究者・技術者に不可欠な課題探求能力やコミュニケーション能力を涵養する。

□海洋生物資源コース

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、専門教育科目を体系的に編成し、各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学修や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。また、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、課題研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、本コースでは生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、課題研究に取り組む。

2. 教育方法

座学、演習、実験、実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。さらに、課題研究を通して、研究者・技術者に不可欠な課題探求能力やコミュニケーション能力を涵養する。

□バイオ工学コース

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。生命や化学そして生命情報学に関する知識の利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、専門教育科目を体系的に編成し、各科目群においては、生命や化学そして情報科学に関する生きた知識と技術を体得するために、実験やプログラミング演習を通じた体験的学修や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。また、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、課題研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。本コースでは生物工学や生命情報学の考え方の基礎となる「バイオプロダクション」、「バイオ統計学演習」、「化学反応速度論」、「バイオ工学基礎」、「有機化学」などを学び、その上で応用科目である「バイオリファイナリー」、「生物化学工学」、「微生物工学」、「分子細胞生物学」、「バイオテクノロジー」、「バイオインフォマティクス」、「ゲノム科学」、「遺伝子工学」、「バイオプログラミング」などを学び、生物工学や生命情報学の医療・産業への応用に関する理解を深める。最終学年では、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、より専門的な課題研究に取り組む。

2. 教育方法

座学、プログラミング演習、実験科目群を通して、化学と生命科学そして生命情報学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。さらに、課題研究を通して、研究者・技術者に不可欠な課題探求能力やコミュニケーション能力を涵養する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/admission/policy>

金沢大学 > 入試情報・高大院接続 > アドミッション・ポリシー（Admission Policy）

（概要）

●数物科学類

数学、物理学は長い歴史をもつ学問として、互いに大きな影響を与え合いながら発展してきた。また、計算機シミュレーションという新しい研究手段の導入により、これまで困難とされていた複雑な数理や自然現象の理解に大きな進展がもたらされている。それらは自然科学をはじめとする現代のあらゆる科学の基礎を支えている。本学類では、21 世紀の科学として発展を遂げつつある新しい数学、物理学を学ぶことを通じ、国際社会の発展に寄与できる人材を育成する。より具体的には数理的、あるいは物理的なものの見方、思考法及び洞察力を身につけ、教育、情報・通信、製造・開発、金融をはじめ、高度情報化社会の様々な分野で活躍できる人材を育成することが目標である。

●物質化学類

化学は物質の化学的性質・構造・反応などに関する基礎的原理の理解、新しい機能性物質の創製、さらに生活を支える化学製品の開発・製造から持続発展可能なエネルギー・環境技術の実現に至る幅広い領域を含んでいる。本学類では、現代社会の諸問題を解決できる創造力と技術力を身につけた優れた研究者・技術者を養成するためにプログラム制カリキュラムを採用している。コアプログラムで基礎学力を修得後、主題ごとに体系化された 6 つのアドバンストプログラムから複数のプログラムを選択履修することで、化学の基本原理の探求と応用技術の創造に挑戦する力を身につけることができる。

“独創性や観察力など独自に考える力”をもち“未知の分野に対する強い探究心とチャレンジ精神”の旺盛な人の入学を期待する。

●機械工学類

本学類では、技術者・研究者として、安全で安心な生活を支え、かつ、向上をもたらす様々な工業製品から、最先端技術の開発に至るまでを対象とした、先進的な設計技術、超精密加工、高度なシミュレーション技法の研究、さらに、エネルギー問題の解決に取り組み、ものづくりのリーダーとして国際的に広く活躍する人材を育成する。そのために、機械工学の基盤となる物理学・数学を積極的に取り入れ、基礎学力の上に立脚した応用能力を涵養し、先端的な教育・研究を通して技術革新を担う能力を育成する。また、自己を知り自己の人間力や表現力を高めるため、倫理・環境に関する教育・研究を実施して工学のみならず社会の調和に貢献し得る人間力を養成する。

本学類は、物理学・数学を駆使し、原子・分子レベルから、巨大構造までを対象とした最適設計法、超精密加工技術、新素材の開発など、未知の領域に挑む分野から、環境に配慮した新エネルギーやエンジンの開発など、自然の保護と持続に貢献する分野まで、広く興味を持つ人材の入学を期待する。

●フロンティア工学類

本工学類では、機械工学、化学工学、電子情報工学の知と技を結集した最先端の教育及び研究を通して、ナノの世界から宇宙空間や人間社会にわたるまでの様々な未踏領域を切り拓き、グローバルな観点から、工学の飛躍的な発展と、近未来社会の創造を牽引していくエンジニアや研究者の育成を目指す。具体的には、ロボティクス、航空宇宙工学、高度センシング技術、ナノテクノロジー、新機能性材料など技術革命をもたらす先進的な分野から、医療福祉工学、生活支援機器、化学製品など生活や社会の調和と発展をささえる分野まで、広く興味を持つ人材を受け入れる。本学類ではコース制は採用せず、電子情報機械、人間機械、マテリアルの3つのコアプログラムと、知能機械、ヒューマンメカトロニクス、マテリアルデザインの3つの基本フロンティアプログラムに加えて、先端横断、先進物理計測の2つの副フロンティアプログラムを組み合わせる。

●電子情報通信学類

本学類が対象とする分野は、持続的発展可能で高度に情報化された未来社会を創造する電気電子技術（EET）と情報通信技術（ICT）からなる。本学類は、電気エネルギー創成・変換、ナノテクノロジー、光・電子デバイス、宇宙探査、セキュリティ、人工知能、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ、クラウドコンピューティングなどに興味がある人材の入学を期待している。

本学類には電気電子及び情報通信の2つのコースがある。地球的視点や技術者としての高い倫理観を有し、電気電子・情報通信分野の未来の課題に対する解決能力を有する自立した技術者・研究者を養成する。

●地球社会基盤学類

本学類では、共通教育としての金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）に基づき、グローバル社会をリードする人材育成のため、われわれ人類の生存基盤となる地球、日常の生活基盤となる社会及びそれらを取り巻く環境を対象に、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力を身につけるため、地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識に基づく総合的・実践的な教育・研究を行い、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成する。科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待する。本学類には、地球惑星科学、土木防災、環境都市の3つのコースがあり、各コースへの配属は2年後期開始前に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定する。

●生命理工学類

「生命」は21世紀の最重要キーワードといわれており、様々な生物についてシステムとしての理解が急速に進みつつある。本学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。本学類では、新分野を切り開く学術的探究心に富み、理学と工学の専門知識を活かして活躍したいと考えている学習意欲のある人の入学を期待する。

本学類には生物科学、海洋生物資源、バイオ工学の3つのコースがある。また、各コースへの所属は、2年後期開始時に本人の希望と学業成績等を考慮のうえ決定する。

※入試に係る取組・改善状況（金沢大学共通）

「KUGS 特別入試」では、本学が提供する「KUGS 高大接続プログラム」を受講した高校生等が、当該プログラムで課される課題レポートと、高等学校若しくは中等教育学校での探究的な学びや課題意識を持って取り組んだ各種活動に関する課題レポートを提出し、「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」(KUGS)に基づき評価を行い、基準を満たした高校生等へ「KUGS 特別入試」の出願資格のうちの1つを与える取り組みを実施。

令和8年度入学選抜から、本学の科目等履修生〈高校生等用〉制度により1単位以上修得した者を KUGS 特別入試の出願資格へ追加。

学部等名 医薬保健学域

教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトで公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku/gakushi>

HOME > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報 > 学域、学類の教育研究上の目的)

(概要)

高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質 [Quality of Life (QOL)] を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772>

HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー)

(概要)

● 医学類

本学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉及び医学研究に貢献する」である。学士(医学)の学位を授与される学生は、以下の学修成果を上げた者とする。学修到達目標

A. 知識及び技能

- ・ 基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。
- ・ 臨床医学領域について専門的な知識を身につける。
- ・ 診断及び治療の基本的技能を修得する。
- ・ 自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。

B. 研究心

- ・ 科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。
- ・ 探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことができる。
- ・ 科学研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。

C. 倫理観

- ・ 患者の自己決定権の重要性を理解する。
- ・ 自分自身の行動を省察し律することができる。
- ・ 医師としての社会的責任を理解する。
- ・ 価値観の多様性を理解する。
- ・ 幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。

D. 地域医療

- ・ 地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。
- ・ 医療の経済的側面を理解する。

E. コミュニケーション

- ・ 患者・家族等と良好な関係を築く。
- ・ 他の医療従事者との連携を重視する。

・強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。

・英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。

F. 危険・事故の予防

・医療従事者の健康管理の重要性を理解している。

・医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。

・医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。

●薬学類

KUGS 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（薬学）の学位を授与する。

学修成果

(1) 倫理・使命・責任を知る。

・薬学高度専門人材が有すべき使命と責務を理解する。

・生命の尊厳への深い認識を基盤とし医療、研究に関する高い使命感、責任感、倫理観をもつ。

(2) 教育者・研究者レベルの薬の専門家を目指すために必須の基本的知識をもつ。

・薬学基礎科目について基本的知識を幅広く有し、自然科学系の学問の相互関連性や重要性を理解している。

・健康と疾病に関わる基礎知識を有し、これらに影響を及ぼす因子について理解している。

・薬物の作用と治療に関する専門知識を有し、薬物治療に起因する問題を認識・評価できる。

・薬の専門家として臨床現場における基本的な技能と態度を有する。

(3) 専門知識に裏付けられた論理性と応用力をもつ。

・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。

・専門的知識を活用した論理的考察に基づいて、基礎薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。

・抽出された基礎薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す意欲とそれに取り組むための応用力をもつ。

・自らの専門的能力を高めるために必要な自己研鑽を主体的に継続することができる。

(4) 薬専門人として必要な表現力とコミュニケーション力を有する。

・課題に対する背景、問題点、解決のための方法などに関する自身の考えを明確にまとめることができる。

・適切な手段と資料を用いて自分の考えを他者に伝えることができる（プレゼンテーション力等）。

・他者と論理的に議論することができる。

・課題の解決に向けて他者と協力して対応することができる。

(5) 将来の目標を設定し、それに必要な多様な専門性の基礎を身につけている。

・薬学分野における活躍の場の多様性と、それに向けて修得すべき知識・技能を理解している。

・広い視野で自身のキャリアプランを柔軟に立て、その実現に向けたキャリアパスの策定と努力をすることができる。

・次世代を担う人材を養成する意欲と態度を有する。

●医薬科学類

養成する人材像（次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材）を踏ま

え、所定の卒業要件を満たし、以下に掲げる生命医科学コースの学習成果を達成した者に学士（生命医科学）の学位を、創薬科学コースの学習成果を達成した者に学士（創薬科学）の学位をそれぞれ授与します。

学習成果

（1）医学と薬学の基礎知識（両コース共通）

医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。

医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。

（2）基礎医学・生命医科学または基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル

（生命医科学コース）

基礎医学の専門的知識を身につける。

生命医科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。

基礎医学・生命医科学の特定領域の深い専門性を身につける。

主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。

（創薬科学コース）

基礎薬学の専門的知識を身につける。

創薬科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。

基礎薬学・創薬科学の特定領域の深い専門性を身につける。

主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。

（3）世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性（両コース共通）

専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。

論理的な思考力と表現力を身につけ、他者と論理的に議論できる。

生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。

国際的視野を有し、英語でコミュニケーションする基礎を身につける。

●保健学類

◎看護学専攻

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】

保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。

・対象となる人を全人的に捉える基本能力を養う。

2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。

・根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を養う。

・地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力を養う（保健師課程）

3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。

・特定の健康問題に対応する実践能力を養う。

・地域の健康危機管理能力を養う（保健師課程）

・専門的自律と継続的な質の向上能力を養う（保健師課程）

4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。

・多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力を養う。

・地域の健康水準を高める事業化・施策化・社会資源開発・システム化能力を養う（保健師課程）

5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。

- ・専門職として研鑽し続ける基本能力を養う。
- ・個人・家族・集団・地域への継続的支援と協働する能力を養う（保健師課程）

6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。

- ・ヒューマンケアの基本に関する実践能力を養う。

◎診療放射線技術学専攻

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】

本学類では、保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成するという教育理念に掲げた人材を育成するため、所定の卒業要件を満たし、以下に掲げる学修成果を達成した本専攻の者に、学士（保健学）の学位を授与します。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。

- ・人体の構造、機能及び疾病、公衆衛生について理解する。
 - ・理工学・放射線科学の基礎知識を修得し、研究方法論を身に付ける。
2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
- ・放射線安全管理の知識や技術を修得する。
 - ・装置の構成や動作原理及び医薬品の特性を理解し、検査に必要な知識や技術を修得する。
 - ・医用画像情報の理論を理解し、画像解析・評価、画像処理の知識を修得する。

3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。

- ・医療チームの一員としての責任と自覚を身に付ける。
4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
- ・患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取ることができる。

5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

- ・放射線部門の運営に関する知識、分析力を身に付ける。

6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。

- ・英語による国際的なコミュニケーション力及びチーム医療の実践能力を修得する。

◎医療検査技術学専攻

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】

本学類は保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（保健学）の学位を授与する。

本専攻は以下の3点の目標掲げる。

1. 臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学修している。多様な専門知識や技術を修得している。

2. さらに、学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて、専門技術者としての仕事の実際や、医療チームの一員としての責任を学んでいる。

3. 研究室への配属を通じて、将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、指導者、研究者となるための基礎も身につけている。

以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学修成果（下記【学生が身に付けるべき資質・能力】参照）を上げることが求められる。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。
 - ・人間の構造と機能を系統的に理解する。
 - ・保健医療と福祉との関係性を説明できる。
2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
 - ・医療工学・医療情報学の基礎知識を有し、理解力、観察力、判断力をもつ。
 - ・臨床病態学として各種疾病を系統的に学修し、それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を説明できる。
 - ・形態検査学として、病理検査・血液検査を系統的に説明できる。
 - ・生物化学分析検査学として、検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に説明できる。
 - ・病因・生体防御検査学として、病原微生物・血清免疫検査を系統的に説明できる。
 - ・生理機能検査学として、臨床生理検査・検査機器の取り扱いができる。
3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。
 - ・検査総管理学として、検査機器の管理法・検査データの精度管理ができる。
4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
 - ・医療研究の手法を測定し、結果を集計し、それを発表し、論文としてまとめる問題解決能力をもつ。
 - ・臨地実習を経験して、講義、実習で修得した知識、技術を臨床レベルで対応できる。
5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。
 - ・科学的思考の基礎能力を有し、人間と社会との関係性を踏まえ、患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力をもつ。
6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。

◎理学療法学専攻

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】

保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（保健学）の学位を授与する。

理学療法学専攻

神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術学を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学修成果（下記【学生が身に付けるべき資質・能力】参照）を上げることが求められる。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。
 - ・正常な身体機能を理解し、起居移動動作と身体運動とを関連して理解する。
 - ・運動機能・知的機能の正常な発達を理解する。
2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。

- ・健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する。
- 3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。
 - ・理学療法学の概念と役割、展開方法を理解する。
 - ・地域ケア活動の基本的な概念、展開のための能力を修得する。
 - ・保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たす役割を理解する。
- 4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
 - ・理学療法評価の概念を理解し、評価技術・技能を修得する。
- 5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。
 - ・運動器疾患・神経疾患・内部疾患に対する理学療法に関する知識・技術・技能を修得する。
 - ・基本動作能力・移動動作における身体運動のメカニズムについて理解する。
 - ・地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する。
 - ・臨床的観察力・分析力、治療計画立案能力・実践力を身につける。
- 6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。
 - ・国内及び国際性の高い臨床・研究の知識・技能を修得する。
 - ・理学療法を推進するための知識・技術・技能を統合する。

◎作業療法学専攻

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】

本学類は、保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。また作業療法学専攻として、1) 人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材、2) 作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材、3) 作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び、実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。

そうした人材を育成するために、本専攻では、1) 正常な身体と発達の理解、2) 疾病・障害の理解、3) 作業療法士の役割と作業療法学の基礎の理解、4) 疾患・障害の評価の理解、5) 疾患・障害に応じた作業療法実践の理解、6) 臨床的応用の修得、7) 作業療法領域の研究技能の修得、における所定の課程を修め、この基本方針に従いこれらの能力を修得し、かつ本専攻の人材養成目標に到達し医療社会に貢献できる者に学士（保健学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。
 - ・正常な身体機能を理解し、身体運動と日常生活活動を関連して理解する。
 - ・運動機能・知的機能の正常な発達を理解する。
2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
 - ・健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する。
3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。
 - ・基礎作業療法学の概念と役割、展開方法を理解する。
 - ・地域ケア活動の基本的な概念、展開のための能力を修得する。
 - ・保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する。
4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
 - ・作業療法評価の概念を理解し、評価技術・技能を修得する。
5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。
 - ・身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する。

- ・生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する。
 - ・地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する。
 - ・臨床的観察力・分析力、治療計画立案能力・実践力を身につける。
6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。
- ・国内及び国際性の高い臨床・研究の知識・技能を修得する。
 - ・作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772>

HOME > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー)

（概要）

●医学類

本学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。

入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から医師としてのプロフェッショナルリズムを惹起させるため、「医学入門」「早期医療体験Ⅰ・Ⅱ」等の医学の導入的カリキュラムを実施する。さらに、医学的課題の解決に取り組むために必要な科学的理論と方法論を理解し、生涯にわたる自己学習の能力および習慣を身に付けるため、課題探究型プログラム「基礎医学チュートリアル」等のアクティブラーニングによる学習法を取り入れる。

なお、世界的に活躍できる医療者・医学研究者の育成を図るため、夏季研修期間を中心として提供される「国際交流プログラム」や選択臨床実習で海外での実習体験等のカリキュラムも、全学年にわたり、各年次のレベルに合わせて取り入れていく。

2 年次以降は、科学的根拠に基づく医療を行なえる能力を身に付けさせるため、基礎医学および臨床医学を関連付けた統合カリキュラムを実践する。同時に、医学研究を担うために適切な基礎となる知識、技能および態度を習得し、科学的探究心を涵養するため、「基礎研究室配属」、「医学研究特設プログラム」等を提供する。

4 年次以降は、「基本的臨床手技実習」、「臨床医学チュートリアル」やケーススタディを通して実際の臨床に段階的に関わらせて患者中心の医療および保健活動を実践できる基盤を構築する。

以上の知識については、主に各科目で課す筆記試験や共用試験 CBT 注 1 で、技能については、共用試験 OSCE 注 2 で、態度については、早期医療体験（アーリーエクスポージャー）や基本的基礎配属（基礎研究室配属）での観察によって評価する。

共用試験 CBT・OSCE 合格後、実践的な臨床能力の習得のため、「診療参加型臨床実習」の機会を提供する。また、地域の医療に貢献する医師としての基礎を形成するため「地域医療実習」を用意し、医療行政を理解させる。

臨床における技能の評価は、6 年次の PCC-OSCE 注 3 で、知識の評価は、2 回の統合臨床試験で、態度の評価は、臨床実習のポートフォリオ評価で行う。

注 1:Computer Based Testing

注 2:Objective Structured Clinical Examination

注 3:Post Clinical Clerkship - Objective Structured Clinical Examination

●薬学類

本学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

(1) 体系的・階層的なカリキュラム：入学後 1 年間は、KUGS に基づく共通教育科目と、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく専門教育科目の導入的・基礎的科目を履修し、

薬学の基本的な学問体系を理解するための土台を築く。2 年次には、基礎薬学を中心とした講義・演習科目を履修して薬学の基礎を固めるとともに、実習科目により基礎的な実験技術を身につける。3 年次には応用薬学、4 年次には医療薬学を中心とする科目を履修し、実務実習事前学習後、薬学共用試験合格を経て、5 年次に実務実習（計 22 週間）で臨床現場における実学としての臨床薬学を学ぶ。並行して、3 年次の第 2 クォーター（Q2）に研究室に配属され、6 年次まで卒業研究・卒業演習に取り組み（実務実習期間を除く）、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵養する。

（2）キャリアプランに応じたカリキュラム：「人材育成目標」に掲げる、①次代の薬学教育・薬学研究を担う大学教員／薬学研究者、②社会の急速な変化に対応して人類の健康増進や疾病予防・治療に貢献できる多様な薬学プロ人材、③高度な臨床力と問題解決能力を身につけた主導的薬剤師、の 3 つの人材養成に向けて、1 年次から 3 年次にかけて段階的にキャリア形成科目を受講し、自身の将来・進路について早期から考える機会を持つ。また、3～4 年次には自身の将来の進路に応じた専門性を身につけられるように、開講される多様な科目から選択して受講する。

（3）早期からの研究マインド涵養と研究能力のステップアップ：1 年次の研究マインド醸成科目において、研究への興味・関心を高めるとともに、研究者や研究活動に関する理解を深め、研究倫理についても学ぶ。また、1 年次の GS 言語科目、2 年次前半の学域 GS 言語科目の履修を通して、英語による情報収集やコミュニケーションの基礎を学んだ後、専門教育の英語演習科目において英語での学術論文の作成や学会発表に関する基本的スキルを身につける。さらに、2～3 年次の各分野の実習科目やラボローテーション、3 年次第 2 クォーター（Q2）からの配属研究室における課題研究への取り組みにより、研究能力を段階的に身につける。

●医薬科学類

医薬科学類では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果を達成するため、医学・薬学双方の基礎的知識を身につけ、医薬科学の基盤を形成した上で、“基礎医学・生命医科学”または“基礎薬学・創薬科学”に専門性を分化し、深化させるとともに、各分野の最先端の知識・スキルを身につけることが重要である。また、“先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開する”ために、入学後の早い時期から研究マインド・倫理観を醸成するとともに、国際的な感性・素養や語学力を身につけることも不可欠である。このような理念の下、各々に対応する科目群を設定するとともに、医薬共通の基礎から生命医科学コースまたは創薬科学コースの深い専門性をシームレスに学べるよう、階層化した教育課程を編成している。

●保健学類

◎看護学専攻

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

（1）共通教育科目では、看護学を履修するうえで基盤となる人文・社会学や自然科学に関する知識、ならびにデータサイエンスやプレゼンテーションなど基本的なアカデミックスキルズを教育する。

（2）専門基礎科目では、身体および精神の機能と構造、病気の成り立ちと回復の促進について教育する。

（3）専門科目では、看護の原理や対象別・ライフサイクル別の看護について教育する。

（4）保健師教育課程では、ヘルスプロモーションから困難事例まで、地域における多様な健康課題への看護について教育する。

2. 教育方法

（1）学年進行に伴って、看護の対象理解から計画立案、実践能力の獲得のための学修へと深化するよう教育している。

（2）看護職者としての立ち位置のみならず、チーム医療やシステム化などの観点から力動的な視点で教育している。

(3) 専門職としての研鑽や自律のために必要な能力の修得を目指して、アクティブラーニングや臨地実習を重視している。

【学修成果の評価】

(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。

(2) 学士課程での学修成果は、「卒業論文」を含めた修得単位数によって行う。

(3) 卒業論文の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。

◎診療放射線技術学専攻

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

本専攻では、診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。

・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。

・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜しまず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを目指す。

2. 教育方法

1年次では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。

【学修成果の評価】

(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。

(2) 学士課程での学修成果は、「卒業論文」を含めた修得単位数によって行う。

(3) 卒業論文の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。

◎医療検査技術学専攻

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

1年次から履修する「専門基礎科目」を出発点とし、「医療工学・医療情報学」、「臨床病理学」、「形態検査学」、「生物化学分析検査学」、「病因・生体防御検査学」、「生理機能検査学」、「検査総管理学」の専門科目について、基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。なお、専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが、各自の希望に応じて他専攻の科目について自主的に履修計画を作成することができる。

2. 教育方法

3年次からは、少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ、学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において、より深く探求する。3年次では、学域GS言語科目が必修であり、専門教育科目の内容を英語にて学修する。また、最終学年では臨地実習を経験し、臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。

【学修成果の評価】

(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。

(2) 学士課程での学修成果は、「卒業研究」や「臨地実習」を含めた修得単位数によって行う。

(3) 卒業研究の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。

◎理学療法学専攻

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学修後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は低学年から4年生まで段階的に配置し、学生の知識や技能に応じた臨床実習を展開している。

2. 教育方法

理学療法学専門科目では、講義、演習および実習を組み合わせることによって、単に知識の修得あるいは単に技術の修得とならないように、治療理論に基づいた治療技術を学生が主体的に学修できることを目的に授業を展開している。また、臨床実習は低学年から段階的に配置し、学生の知識や技能に応じて施設見学、理学療法部門見学から始まり、3年生後半では評価実習を経験させることにより対象者の状態把握を学ばせた後、4年生前期で「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を修得すること」を目的に病院等での臨床実習を行っている。

【学修成果の評価】

(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。

(2) 学士課程での学修成果は、「卒業論文」を含めた修得単位数によって行う。

(3) 卒業論文の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。

◎作業療法学専攻

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

作業療法士は人と接する職業であるため、幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために、医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として、解剖・生理学、運動学などを学び、その後に臨床医学へと結びつけていく。評価学実習、総合臨床実習では病院、施設等で作業療法の実践を学び、知識と技能を修得する。

2. 教育方法

1年次から学内の講義・実習に加えて、学外にてリハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて、作業療法学の専門科目が多くなり、3年次からは、学外の関連病院等での評価学実習を組み入れて、学内で学んだ知識と技術を実際の臨床現場を通して確認しながら進めていく。同時に面接等においては必要な対人交流技術を修得する。4年次では、これまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し、総合臨床実習及び卒業研究等を通して、作業療法士に必要な知識・技術を修得できる教育課程に編成している。

【学修成果の評価】

(1) 授業科目において、成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて学修成果を評価する。

(2) 学士課程での学修成果は、総合臨床実習、卒業研究等を含めた修得単位数で行う。

(3) 総合臨床実習及び卒業研究の審査は、筆記・口述試験、報告会等で実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Webサイト上で公表

<https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/policy/>

HOME > 入試情報・高大院接続 > アドミッション・ポリシー（Admission Policy）

(概要)

●医学類

本学類は、本学における従来の医学部医学科に相当し、卒業者は医師国家試験の受験資格を与えられ、合格することによって医師としての資格を得る。その上で、本学類では、社会の変化に適応しつつ、多様かつ高度な医療ニーズに応え、プロフェッショナルな医師として成長・発展することが期待できる人材を受け入れる。

【求める人材】

明確な目的意識と強い使命感を有し、知識や技能の習得能力、論理的及び倫理的な思考力、協調性を有する人材を求めて選抜を行う。

なお、外国人留学生については、医師国家試験が日本で行われる関係上、相応の日本語能力を求める。

●薬学類

本学類は、人類が抱える健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献する多様な「薬（くすり）専門人」の養成を基本理念とし、以下のような人材の養成を目指します。第一に、次代の薬学教育・薬学研究を担う、博士（薬学）の学位と薬剤師資格を併せ持つ「大学教員」、がん・生活習慣病・認知症・感染症等の主要疾患から難治性の希少疾患まで、革新的な医薬品の創出に取り組む「薬学研究者」等、薬学高度専門人材の養成を本学類の使命として特に重視します。第二に、超高齢社会、超過疎化、情報通信技術革新、国際化など、時代の急速な変化に対応して、人類の健康増進や疾病予防・治療に貢献できる多様な「薬学プロ人材」を養成します。第三に、薬学の知識のみならず多角的な知識・経験に基づいて物事を俯瞰でき、問題解決能力を身につけた「主導的薬剤師」を養成します。

一般選抜の入学者は、基礎・専門科目やキャリア形成科目群の学修を通して、自らの適性と使命を見極めた上で進路を決定していく教育システムを取っていますが、中でも本学類では大学院博士課程（4年制）への進学を強く推奨します。薬学類・高大院接続入試の入学者には、大学院博士課程修了までの一貫した教育を導入しています。

●医薬科学類

医薬科学類は、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開できる高度な研究基盤力を備えた研究者人材の養成を基本理念とします。本学類には、生命医科学と創薬科学の2つのコースがあり、1年次に医学と薬学の基礎的科目を共通に修得した後、コースに分かれて各専門性を深化させ、大学院博士前期・後期課程に進学して、医学・薬学の幅広い視点といずれかの深い専門性を併せ持つ特色ある研究者人材の養成を目指します。「生命医科学コース」では、薬学の基礎的知識も備えた、基礎医学・生命医科学領域を専門とする研究者を、「創薬科学コース」では、医学の基礎的知識も備えた、基礎薬学・創薬科学領域を専門とする研究者を養成します。各コースへの配属は、2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。本学類では、以下に示す人材を広く求め、特に少数精鋭の特徴的な医薬科学教育を受けて、将来、世界の最先端医療や医薬品の研究・開発をリードする意欲を持つ人の入学を期待します。

●保健学類

本学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とする。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成

である。

本学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、診療放射線技術学専攻、医療検査技術学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設ける。

◎看護学専攻

看護学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、人々が、グローバル化する社会、多様な環境に適応しながら健康的に質の高い生活を送ることを支援する学問である。

本専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習する。さらに、学内及び学外の医療保健及び福祉現場での実習を通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの一員としての責任を学ぶ。また、研究やゼミを通し、将来の看護科学を担う者として幅広い科学的知識問題解決方法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、看護実践力のある指導者、教育者、研究者となるための基礎も身につける。卒業時には、看護師、保健師*の国家試験受験資格を取得することができる。

*保健師課程は、選択制です。保健師として将来就職を希望する学生（最大40名）で、所定の科目を履修し、その単位を修得した者のみが、卒業時に「保健師国家試験受験資格」を取得できる。

【求める人材】

- ・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献したいと強く願う人
- ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとなる夢を持つ人

◎診療放射線技術学専攻

放射線技術学は、放射線、磁気、超音波を使用した医療機器の原理や特性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機能並びに医薬品に対する生物学的な特性などを修得する学問である。診療放射線技師となるために必要な専門技術を修得するとともに、医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。また、研究室配属を通じて、将来の放射線技術学を担う課題探求能力や、研究者となるための基礎も身につける。卒業時には、診療放射線技師の国家試験受験資格を取得することができる。

【求める人材】

- ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる有能な人
- ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考することができる人
- ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を持つ人

◎医療検査技術学専攻

本専攻は、主に病気の診断や治療効果判定に対して重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問である。本専攻では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者としての役割を学ぶ。また、研究室配属を通じて、進歩する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得する能力を養う。卒業時には臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができる。

【求める人材】

- ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高めて、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

◎理学療法学専攻

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野である。種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼吸器などの機能が低下したり損傷を受けた人に対して、運動療法や物理療法を駆使して治療に当たる。本専攻では、理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成する。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得することができる。

【求める人材】

- ・豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

◎作業療法学専攻

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度をもつ人材を養成する。本学の作業療法教育は脳機能解析学や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅広い分野の専門教員の下に行われている。作業療法の技術科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立ちたい人の入学を希望する。卒業時には、作業療法士の国家試験受験資格を取得することができる。

【求める人材】

- ・たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人

※入試に係る取組・改善状況（金沢大学共通）

「KUGS 特別入試」では、本学が提供する「KUGS 高大接続プログラム」を受講した高校生等が、当該プログラムで課される課題レポートと、高等学校若しくは中等教育学校での探究的な学びや課題意識を持って取り組んだ各種活動に関する課題レポートを提出し、「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」（KUGS）に基づき評価を行い、基準を満たした高校生等へ「KUGS 特別入試」の出願資格のうちの1つを与える取り組みを実施。

令和8年度入学者選抜から、本学の科目等履修生＜高校生等用＞制度により1単位以上修得した者を KUGS 特別入試の出願資格へ追加。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku>

HOME ＞ 金沢大学について ＞ 情報公開 ＞ 教育に関する情報

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	11 人	—					11 人
融合学域	—	17 人	10 人	10 人	6 人	0 人	43 人
人間社会学域 （教員養成以外）	—	68 人	46 人	16 人	1 人	1 人	132 人
人間社会学域 （教員養成）	—	27 人	17 人	1 人	0 人	0 人	45 人
理工学域	—	75 人	90 人	5 人	37 人	0 人	207 人
医薬保健学域 （医学系）	—	39 人	24 人	10 人	41 人	0 人	114 人
医薬保健学域 （薬学系 6 年）	—	13 人	12 人	0 人	13 人	0 人	38 人
医薬保健学域 （薬学系 4 年）	—	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
医薬保健学域 （その他）	—	33 人	22 人	3 人	28 人	0 人	86 人
教養部 （一般教育）	—	13 人	22 人	12 人	3 人	0 人	50 人
大学院	—	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
附属病院	—	2 人	10 人	30 人	84 人	0 人	126 人
附属研究所	—	33 人	21 人	0 人	17 人	0 人	71 人
その他	—	26 人	25 人	4 人	16 人	0 人	71 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		431 人					431 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://ridb.kanazawa-u.ac.jp/public/index.php					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/fd							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
融合学域	165 人	156 人	94.5%	710 人	694 人	97.7%	60 人	27 人
人間社会学域	668 人	634 人	94.9%	2,672 人	2,907 人	108.8%	—	—
理工学域	619 人	572 人	92.4%	2,516 人	2,654 人	105.5%	40 人	46 人
医薬保健学域 医学類(6年)	111 人	110 人	99.1%	696 人	707 人	101.6%	5 人	4 人
医薬保健学域 薬学類(6年)	65 人	65 人	100%	390 人	395 人	101.3%	—	—
医薬保健学域 医薬科学類(4年)	18 人	18 人	100%	72 人	78 人	108.3%	—	—
医薬保健学域 保健学類(4年)	189 人	188 人	99.5%	776 人	780 人	100.5%	10 人	6 人
総合教育部 (全学教育・ 国際共修機 構)	—	148 人	—	—	149 人	—	—	—
合計	1,835 人	1,891 人	103.1%	7,832 人	8,364 人	106.8%	115 人	83 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	学部等名 卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
融合学域	77 人 (100%)	19 人 (24.7 %)	54 人 (70.1 %)	4 人 (5.2 %)
人間社会学域	665 人 (100%)	45 人 (6.8 %)	591 人 (88.9 %)	29 人 (4.4 %)
理工学域	650 人 (100%)	488 人 (75.1 %)	145 人 (22.3 %)	17 人 (2.6 %)
医薬保健学域	368 人 (100%)	105 人 (28.5 %)	249 人 (67.7 %)	14 人 (3.8 %)
合計	1,760 人 (100%)	657 人 (37.3 %)	1,039 人 (59.0 %)	64 人 (3.6 %)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(主な進学先) 金沢大学大学院、東北大学大学院、大阪大学大学院				
(主な就職先) 国立大学法人金沢大学附属病院、石川県金沢市役所、石川県庁、小松製作所、福井県庁				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 次年度時間割編成後に、当該授業担当教員が Web システムでデータを入稿する。 その際、次の項目は入力必須としている。 「授業の主題」、「学修目標（到達目標）」、「授業概要」又は「講義スケジュール」、「評価の方法と割合」、「授業時間外の学修（予習・復習）に関する指示」、「オフィスアワー等」、「英語化率」、「開講形態」。 入稿後、各学域等において全項目の内容を点検したうえで、Web にて学内外に公開している。 授業計画の作成・公表時期 前年度 1 月から Web システムで入稿を開始し、前年度 3 月 1 日に公開する。 （例：2026 年度のシラバスは 2025 年度の 3 月 1 日に公開した） ○金沢大学シラバス 金沢大学> Web シラバス（授業案内） https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) <u>すべての学域等で共通</u> 本学履修規程第 14 条（成績の評価）及び第 15 条（総合成績評価）にて、成績の評語、判定、学修達成度、GP、GPA 算出方法等について定めている。 GPA は学期ごとに算出し、学務情報サービスの学生成績閲覧ページにて掲載している。 $GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$ 評語：GP＝「S：4 点」「A：3 点」「B：2 点」「C：1 点」「合：対象外」 「認定：対象外」「不可：0 点」「否：対象外」「放棄：0 点」 「教育の質保証」の根幹をなす厳格・公正な成績評価のため、Web 上（学内限定）で成績分布を公開し、教職員が参照できる仕組みが整っている。

2021 年度開講科目からは学士課程において学類・年次ごとの 1 年間の成績分布（年間 GPA）を本学 Web サイトに掲載することを 2022 年度に実現し、成績分布状況の分析、成績評価の信頼性を確保する取組を進展させている。

また、すべての学域・学類等の①「卒業・修了の認定に関する方針すなわち学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」、及び②「必要な修得単位数」を次の Web サイトで集約・公表している。

①<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/1772>

金沢大学 > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 3つのポリシー、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー

②<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/570#a2>

金沢大学 > 教育・学生支援・学生活動 > 授業・履修 > 卒業要件

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
融合学域	先導学類	124 単位（融合試験 履修者は 130 単位以上）	有	各 Q につき 12 単位
	観光デザイン学類	124 単位（融合試験 履修者は 130 単位以上）	有	各 Q につき 12 単位
	スマート創成科学 類	124 単位（融合試験 履修者は 130 単位以上）	有	各 Q につき 12 単位
人間社会学域	人文学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	法学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	経済学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	学校教育学類共同 教員養成課程	142 単位	有	各 Q につき 12 単位 ※ただし 2 年次と 3 年 次は各 Q につき 16 単位
	地域創造学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	国際学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
理工学域	数物科学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	物質化学類	126 単位	有	各 Q につき 12 単位
	機械工学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	フロンティア工学 類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	電子情報通信学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	地球社会基盤学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
	生命理工学類	124 単位	有	各 Q につき 12 単位
医薬保健学域	医学類	245.5 単位	有	各 Q につき 12 単位 ※1 年次のみ。2 年次 以降は上限なし
	薬学類	193 単位	有	1 学年：1 Q～3 Q は 12.5 単位。4 Q は 13.5 単位。 2 学年：1 Q は 15.5 単位。2 Q は 7.5 単 位。3 Q は 14.5 単 位。4 Q は 12.5 単 位。 3 学年：1 Q は 12.5

				単位。2Qは11単位。3Qは12単位。4Qは15単位。4学年：1Qは13単位。2Qは11単位。3Qは8.5単位。4Qは6単位。
	医薬科学類	128 単位	有	・生命医科学コース 1学年：各Qにつき12単位。 2学年：1Qは14単位。2Qは10単位。3Qは13単位。4Qは14単位。 3学年：1Qは13単位。2Q～4Qは12単位。 4学年：各Qにつき12単位。 ・創薬科学コース 1学年：各Qにつき12単位。 2学年：1Qは14単位。2Qは8単位。3Qは14.5単位。4Qは12単位。 3学年：1Qは14.5単位。2Qは11単位。3Qは10単位。4Qは12単位。 4学年：1Qは7単位。2Qは5単位。3Qは5単位。4Qは6単位。
	保健学類看護学専攻	134 単位	有	1Qにつき12単位
	保健学類診療放射線技術学専攻	135 単位	有	1Qにつき12単位
	保健学類医療検査技術学専攻	140 単位	有	1Qにつき12単位
	保健学類理学療法学専攻	133 単位	有	1Qにつき12単位
	保健学類作業療法学専攻	133 単位	有	1Qにつき12単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

●金沢大学概要

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/outline>

金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学概要

●金沢大学大学案内

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/daigakuannai>
金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学案内

●データで見る金沢大学

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/data>
金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > データパンフ

●金沢大学キャンパスマップ見どころガイド付き

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/navi>
金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 金沢大学キャンパス
マップ見どころガイド付き

●大学 Web サイト：附属施設

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/facilities/institution>
金沢大学 > 金沢大学について > 附属施設・利用案内 > 附属施設

⑧ 授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学域等	全学類等	535,800 円	282,000 円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨ 大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 奨学金については、日本学生支援機構奨学金、民間奨学団体及び地方公共団体を扱っている。修学支援新制度により減免を受けようとする学生の入学料及び授業料は、認定の可否が決定するまでの間、徴収を猶予している。また、修学支援新制度の対象外となる学生については、申請により審査の上、授業料を半額免除にする減免制度を設けている。 健康管理支援のため、本学に保健管理センターを設置している。各地区の在学者に対応するため、分室を設け健康管理を行うとともにメンタルヘルスに関する相談にも対応している。 生活支援のため、福利厚生施設を各キャンパスに設け、食事の提供や教育に必要な雑貨の販売を実施している。 住環境支援のため、学生留学生宿舎を設置している。角間地区キャンパス内にあり、日本人学生と外国人留学生が共同生活するシェアハウス型の学生寄宿舍となっている。 ・健康管理 http://hsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/ HOME > 金沢大学について > 附属施設・利用案内 > 附属施設 > 保健管理センター ・生活支援 http://www.kindai-coop.jp/shop/index.html HOME > 教育・学生支援・学生生活 > キャンパスライフと生活支援 > 食堂・売店 ・学生寄宿舍 https://www.kanazawa-u.ac.jp/students/livelihood/residence HOME > 教育・学生支援・学生生活 > キャンパスライフと生活支援 > 住居（学生寄宿舍）
b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要) 本学では、アドバイス教員制度によりキャリア形成支援を行うとともに、指導教員が中心となって進路指導を実施し、大学院への進学指導を行うとともに、キャリア支援室とアドバイス教員、就職担当教員等が連携してキャリア支援・進路相談・就職指導にあたっている。 キャリア支援室では、キャリア形成・就職活動にタイムリーに対応したガイダンス等の開催をはじめ、求人情報や本学出身在職者情報の提供、就職関連書籍の貸出、キャリア相談員による進路・就職相談、エントリーシートの添削、面接練習等を行い、学生が主体的にキャリア形成、進路選択及び就職活動ができるよう支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、すべての学生が、いかなる差異、いかなる困難にもかかわらず、できる限り等しい条件の下で教育の果実に与ることができるよう、経済的支援、自律的生活の支援、社会的責任の自覚の涵養などを含めた包括的な学生支援を行うことを目的とし、「金沢大学 KUGS サポートネットワーク」を設置している。 「金沢大学 KUGS サポートネットワーク」では、各部局、相談窓口及び支援組織が連携し、学修支援、キャリア形成支援、ヘルスケア支援、障がい学生支援、性的マイノリティ支援等の各種支援を行う。 気軽に学生が相談できるように学生ボランティア及び教員が対応にあたる「なんでも相談室」や保健管理センターのカウンセラーの相談を受けられる体制を整備している。 URL : https://www.kanazawa-u.ac.jp/students/consultation 金沢大学 > 教育・学生支援・学生活動 > 学生相談窓口（困ったときは）

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公表方法：Web サイト上で公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku HOME > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

金沢大学における総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組

○入試科目の見直し

- …令和3年度入試からの導入：融合学域における文系傾斜・理系傾斜入試の導入
- …令和7年度入試からの導入：大学入学共通テスト「情報Ⅰ」の導入（選抜方法等により取扱いは異なる）
- …令和8年度入学からの導入：本学の科目等履修生＜高校生等用＞制度により1単位以上修得した者をKUGS特別入試の出願資格へ追加

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/admission/bachelor/>

HOME > 入試情報・高大院接続 > 入試制度（学士課程の入学者選抜）

○入学後の文理横断型の教育／複線的・多面的な学び

…学域・学類制

従来の学部よりも広い学術領域をカバーする学域制度及び従来の学科よりも、柔軟で広い分野を学べる学類制度を採っています。

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/corporation/program/flexible>

HOME > 金沢大学について > 金沢大学の取り組み > 特長のある教育プログラム > 学域学類制による柔軟な学び

…副専攻制度

主専攻に加え、学類やコースの区分を越えて、ひとりひとりが主体的に興味関心のある分野を学修する制度です。

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/3491>

HOME > 金沢大学について > 金沢大学の取り組み > 特長のある教育プログラム > 副専攻

…共通教育科目 GS 科目（KUGS に基づく基幹教育）

世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材育成のために設けた本学独自の教育方針である「金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard；KUGS）」に基づいて考案した授業科目を配置しています。

<https://oeli.w3.kanazawa-u.ac.jp/subject/class/gs-maptree/>

HOME > 学域・学類・大学院 > 全学教育・国際共修機構 > 共通教育科目 > 授業関係 > GS 科目（カリキュラムマップ）

…本学域の創設（R3：先導学類、R4：観光デザイン学類、R5：スマート創成科学類）

文理融合（異分野融合）、イノベーション、アントレプレナーシップ、デザイン思考、そして多様性—多様な分野やシステムについて融合的・統合的な学修を提供し、イノベーションをリードする人材を育成します。

<https://innov.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

HOME > 学域・学類・大学院 > 融合学域

…知識集約型社会を支える人材育成事業「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」で展開する「先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）」

全学域の学生を対象とした文理融合教育を実践する特別プログラムで、自身の

専門分野に軸足を置きながら積極的に他分野の知見を深め、異分野・異文化協働によって、未来課題の解決に挑戦する先導 STEAM 人材を育成することを目的としています。

<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/about/steam/>

HOME > 金沢大学について > 金沢大学の取り組み > 特長のある教育プログラム > 融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム

○全学的なデータサイエンス教育

…データサイエンス特別プログラム

全学士課程学生を対象とするプログラムであり、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」のリテラシーレベル、応用基礎レベルの双方の認定を受けています。

<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/239>

HOME > 金沢大学について > 金沢大学の取り組み > 特長のある教育プログラム > データサイエンス特別プログラム

○防災・復興人材特別プログラム

…令和 6 年能登半島地震からの復旧・復興に向け、自身の専門分野での学修成果を基に、被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興に寄与する人材養成が急務となっています。

そのような背景から、本学では、災害、復旧・復興、防災・減災に関する科学的知見の学修により身につけた科学的、倫理的及び実証的な力をもって、被災地の復旧・復興に貢献し、広く我が国や世界の防災・減災に貢献できる高度人材を育成するべく、学士課程及び修士・博士前期課程の正課教育として防災・復興人材特別プログラムを R7 年度から実施しています。

<https://bousaifukko.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

HOME > 金沢大学について > 金沢大学の取り組み > 特長のある教育プログラム > 防災・復興人材特別プログラム

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F117110105393
学校名 (〇〇大学 等)	金沢大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人金沢大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1672人（1286）人	1646人（1253）人	1714人（1309）人
内 訳	第Ⅰ区分	267人	268人	
	(うち多子世帯)	(60人)	(56人)	
	第Ⅱ区分	135人	137人	
	(うち多子世帯)	(29人)	(29人)	
	第Ⅲ区分	103人	92人	
	(うち多子世帯)	(30人)	(19人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	193人	178人	
	区分外（多子世帯）	974人	971人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（－）人
合計（年間）				1718人（1310）人
(備考) 国立大学のため、「第Ⅳ区分（理工農）」は支援対象外				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	36人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	47人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	一人
訓告	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	一人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
G P A等が下位4分の1	190人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	一人	人	人
計	191人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。